昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和47年9月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

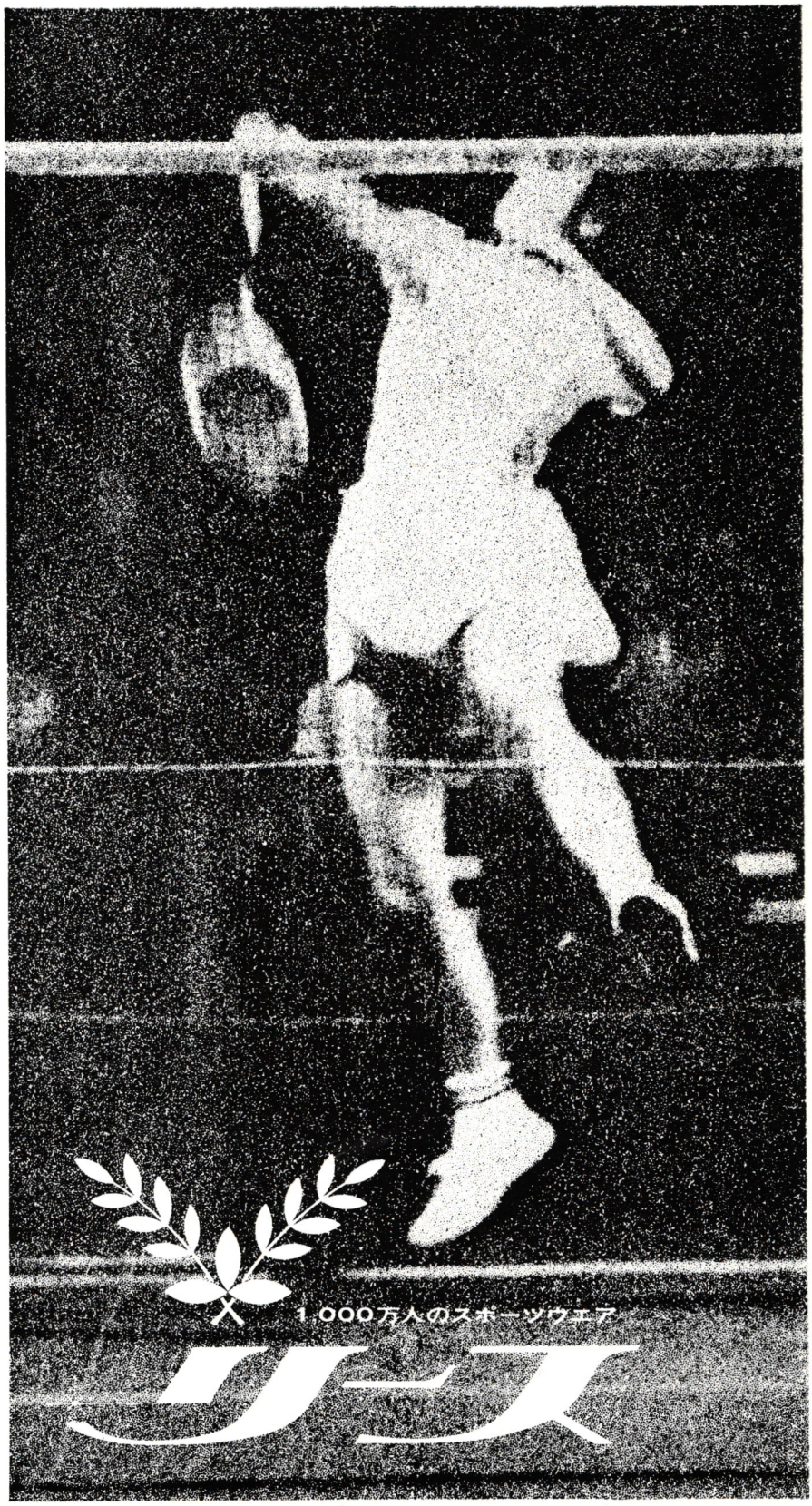
バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

36 SEPTEMBER 1972



この一瞬!!

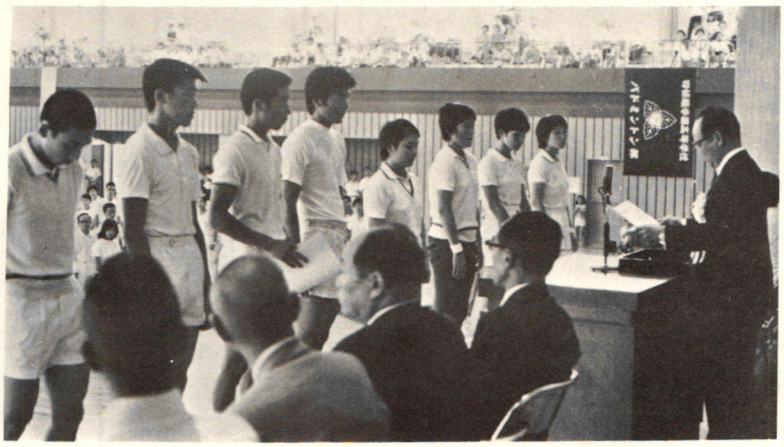


あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件を
プレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

K TOKYO

河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-884・0453

今月号のダイジェスト



全国高校選手権大会のシングルス表彰式――
左から男子　③辻（金沢市工）　③須藤（東奥義塾）　②辻（添上）　①中井（正強）
女子　①秋本（四条畷学）　②徳田（同）　③沼熊（真岡女）　本田（千葉学）

である。はたして日本が、この厚いカベを破れるか。本号では卜杯の歴史、試合方法、日本のこれまでの歩みをお知らせするとともに、代表一覧、監督の決意、それに酷暑の下で行なわれた強化合宿のもようをルポするなど、多角的に編集した。

限りあるページながら今月号はトマス杯の対マレーシア戦を特集した。

マレーシアは過去4度優勝、インドネシアと互角の〝横綱〟物インターハイ。今年は山形県新庄市で開かれた。男子では名門・正強（奈良）女子では四条畷（大阪）がそれぞれ二連勝、しかもことしは両校とも個人戦二種目も手にした完全優勝。逆にいうと正強のエース中井、四条畷学の秋本は団体戦と合わせ〝三冠〟に輝いたわけ。男女そろっては珍らしい。読みものは大会競技委員長の遠井稔男先生にお願いした。

★スコアのつけ方　読者の注文を早速、記事にまとめた。スコアのつけ方は、競技規則で決まっているわけではなく、各人各様のやり方をやっている。どう記録するかは、なんの目的でつけるか、ということと関連してくる。このへんを考えたい。

★北から南から　前号巻末で予告したように、ユニバーサル通信社提供資料を活用した全国の動きや話題をまとめてお知らせすることにした。きっと皆様が活用したり、ヒントにしたりできるものもあるはず。

★大会運営規定100問　タイトルだけ見ると一般の人に無関係みたいだが、読むとそうでない。今月からしばらく続けるので、ご愛読を。

★全国高校選手権　真夏の名

バドミントン界

〈47年9月号〉

【特集】強豪マレーシアを破れるか　卜杯を前に
・卜杯その由来と解説……2
・歴代優勝国一覧表……2
・日本の参加小史……3
・マレーシアのメンバー……3
・日本代表に秋山、小島ら6選手……4
・必勝の信念で〈監督の抱負〉……5
・一日で体重3キロもダウン〈合宿ルポ〉……6
◇写真グラフ　健闘誓う代表たち……17
【特集】ワイド版・百万人の上達法
・ヘアピンとクリア……26
・目を重視しよう……28
・小柄な選手〈名和和子の場合〉……29
・下手打ちをマスターしよう……30
・初歩からの体力づくり〈全身のトレーニング〉……31
◇スコアのつけ方とその意味……14
◇全国高校選手権速報……9
・四条畷がまた完全優勝〈主な記録〉
・大会を顧みて
◇北から南から〈全国各地の活動と話題〉……34
◇ラブオール・プレイ〈よく使われる用語〉……12
◇新連載――大会運営規定百問……13
◇レコード……37　◇ダイジェスト……1
◇今月の言葉……40　◇編集室、次号予告……40

スタッフ／表紙撮影・松井亮麿／同製作・小浜正道／グラフ・山田真市／その他写真提供・佐藤茂雄、池田茂樹／イラスト・秦　浩／編集・明本薫、秦　浩／庶務・本島道子／協力・日本協会事務局、各加盟団体関係者、ユニバーサル通信社、東京運動記者クラブ、愛読者

はたして強豪を破れるか

特集 トマス杯、マレーシア戦を迎えて

男子の世界選手権トマス杯のアジア東地区決勝、日本×マレーシア戦が、十月七日・八日の両日、東京・国立代々木競技場の第二体育館で開かれる。

東地区への参加申し込みはどういうわけか、日本とマレーシアしかなかった。そういうわけで、日本は幸か不幸か、初手からマレーシアと激突することになってしまった。

マレーシアは第一回大会から3連勝し、第七回にも優勝、インドネシアと同じく四度、世界の王座を握った強国。まだマラヤといった時代に、代表を招待して〝後進国〟だった日本が胸を借りたことがある。

マレーシアに勝っても、そのあとアジア・ゾーンの決勝、そしてインターゾーンがあり、道は近くないが、日本にとってこの一戦、インターゾーンの決勝と同じだ。はたして、この強豪を日本は首尾よく破ることができるか——。

トマス杯は国別チーム対抗の男子世界選手権を争うもの。IBF（国際バドミントン連盟）の初代会長ジョージ・トマス卿が優勝者に贈るカップを寄贈したので、この名がつけられた。

女子の世界選手権ユーバー杯よりも一足早く、一九四八年にスタート（別表の1948—49）いうのは48年に予選が始まり、49年に優勝が決まったという意味）、やはり三年ごとに行なわれている。

ユ杯同様、世界をアジア、ヨーロッパ、南北米大陸、オーストラレーシア（豪州・ニュージーランドを含むアジア）の四大地域に分け、ゾーン予選を行なう。

このゾーン優勝国と選手権保持国の五カ国チームが集ってインターゾーンのトーナメントを行ない、その勝者が新しくカップ保持国に決まる。ゾーンの区分けは地理上のものだが、どこの国がどのゾーンから出場してもかまわない。

1対抗戦は単複計9試合で、これを二日間に分けて行ない、そのうち5試合を先取した方が勝者となる。しかし、たとえ5—0で勝敗が決定した場合でも残り試合は必ず最後まで挙行される。

二日にわたる試合の順序は次のようになっている。

▽第一日 ①単NO1同士②複NO2同士 ②単NO2対NO1③単NO3同士④複NO1対NO2⑤複NO2対NO1

この出場者組み合わせは第一日の試合開始二十四時間前に両チーム関係者立ち合いで決められ、不測の出来ごとでもない限り変更することはできない。ただし、試合順序は場合によって同一選手の単複が続く場合があるので、組み合わせのときにあらかじめ変える場合がある。

これまでの優勝国は別表のとおりで、インドネシアとマレーシアが断然強い。両国ともに4度ずつタイトルをとっている（第一回—第三回のマラヤはマレーシアの前身）日本はマレーシア、インドネシアにつぐ実力の持ち主だが、このほかにもタイ、ビルマ、シンガポール、インドなどが強く、いわゆる東南アジア勢が欧米の白人選手を圧している。

過去のトマス杯保持国

		出場国	チャンピオン国
第1回	1948—49	10ヶ国	マラヤ (MALAYA)
第2回	1951—52	12ヶ国	マラヤ (MALAYA)
第3回	1954—55	21ヶ国	マラヤ (MALAYA)
第4回	1957—58	19ヶ国	インドネシア (INDONESIA)
第5回	1960—61	19ヶ国	インドネシア (INDONESIA)
第6回	1963—64	26ヶ国	インドネシア (INDONESIA)
第7回	1966—67	23ヶ国	マレーシア (MALAYSIA)
第8回	1969—70	25ヶ国	インドネシア (INDONESIA)
第9回	1972—73	?	?

トマス杯・日本の参加小史

日本がトマス杯に参加したのは第三回から。一九五四年といえば日本はまだ終戦の痛手から脱却しておらず。生活も苦しかった。バドミントンの世界でも同様であり、協会は弱体で貧乏、ただこの新しい競技を普及し、日本の名を高めようとの意気に燃えていた。

初参加は第三回

このときはアジア・ゾーンから出場。1回戦は不戦勝に恵まれ、2回戦は遠征して香港と対戦したが3－6で敗れた。いまなら香港など問題にならぬような相手だが、この前年の五三年（昭和二十八年）IBFに加盟したばかりであり、敗戦もむしろ当然だった。

しかし、このときの敗戦は日本に目を開かせる機会をつくった。外国との交流を盛んにし、進んだ技術や選手づくりを学ぶことの必要性が深く認識されたからである。

第四回大会にもアジア・ゾーンから出場した。1回戦でコロンボに遠征、セイロンを9－0で破った。その帰り道、シンガポールと香港で親善試合を行なったが、香港では7－1と圧勝し、前回の〝借り〟を完全に返すまでに成長した。

しかし、主とした財政上の理由から二回戦の対タイは棄権、第五回大会でも、オーストラレーシア・ゾーンに申し込みながら、対豪州戦を棄権した。

地歩を固めつつ

もっとも、この間の五八年（第三回アジア大会 東京）で初めてバドミントンが実施種目となったさい、タイ、台湾の強豪を連破、優勝に輝く成績を収めるなど、少しずつ地歩を固めていった。

また同じ年、シンガポールで開かれた第四回トマス杯のインターゾーンの帰途、日本に立ち寄った米国代表チームを迎えうち、みごとにこれを破るという成績もおさめた。

インターゾーンに進出

第六回大会は、日本にとって記念すべき時となった。この年は米州ゾーンから出場し、初めてインターゾーンにまで進んだからである。

1回戦はメキシコ市でメキシコと対戦し9－0で完勝。2回戦ではバンクーバーに飛んでカナダを8－1で破った。決勝の相手はアメリカだったが、これも7－2と圧倒的な強さで片付けた。

インターゾーンは史上初めて日本（東京）で開かれた。一九六四年五月、東京オリンピックの五ヵ月前だった。しかし、1回戦でタイと対戦し、3－6の苦杯をなめた。

世界のカベは厚かったが、日本の力はこの時から、しだいに〝国際レベル〟に定着、充実してきた。全英選手権等への海外遠征もようやく盛んになっていった。

第七回大会では、一転してオーストラレーシア・ゾーンへ参加した。1回戦はニュージーランドで行なわれ、ニュージーランドを9－0で破った。決勝はオーストラリアが相手。試合はアデレードで開かれ、これも9－0で軽く勝った。

ついに世界第3位

かくして日本は連続二度目のインターゾーン進出を果たし、ジャカルタに遠征した。インターゾーンは、当時ゾーン代表4カ国で争われ、その優勝者がチャンピオン国に挑戦する仕組みだった。

日本は1回戦でまず米国を7－2で降したが、決勝ではマレーシアに3－6で敗れた。しかし、これでランキングは世界3位となった。秋山、小島はこの時からの代表である。

第八回大会は、日本女子がユ杯の初防衛に成功したという、かってない盛り上がりを背景に進んだ。参加ゾーンはアジアの東地区。香港に遠征して9－0で軽く勝ったあと、インターゾーン進出をかけた決勝が強敵インドネシアを京都に招いて行なわれた。

ハルトノに及ばず

女子に負けるな、という夢がかけられていたが〝世界のエース〟といわれるハルトノ相手の単複4試合に完敗、苦杯をなめることになった。対戦スコアは4－5と1ポイント差だったが、実質的には第八試合のダブルスで勝負がついており、3－5のスコアといってもよい。

余談だが、このカードに先き立ちアジア西地区決勝のタイ×インドネシア戦で審判の判定をめぐって紛争がおき、インドネシアが試合放棄した。

このため、いったんはタイの勝利と裁定されたが、インドネシアが提訴したため、IBFは「日本で残りを再試合」と裁定し直した。今度はこれにタイが怒って従わなかったため、IBFから逆に〝棄権負け〟の処分を受けるハメになった。

マレーシア代表選手

タン・アイク・ハン 27歳、178センチ。マレーシアの主要タイトルを全部手にしているベテラン。六六年全英選手権単優勝。

タン・アイク・モン 23歳、184センチ。ハンの弟。第四回国際学生選手権、七一年アジア選手権の単優勝。

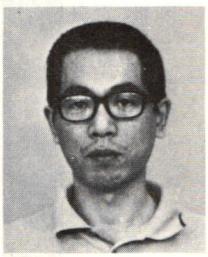
ウン・ブン・ビー 34歳、163センチ。ダブルスの名手、かつてはタン・イー・カンと組んで一九六〇年代に活躍、国内タイトルを連続獲得、六五、六六年全英選手権も獲得。

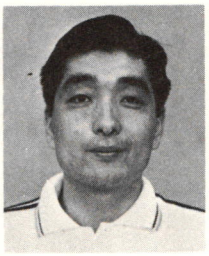
ピー・グナラン 25歳、176センチ。六九、七一年マレーシア選手権の単優勝、第六回アジア大会単複1位、七一年ウン・ブン・ビーと組み全英選手権にも優勝。

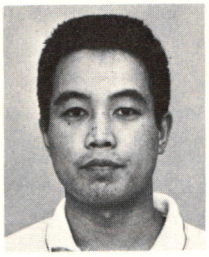
ウン・タット・ワイ 21歳。七一年アブドル・ラーマンと組みマレーシア選手権複のチャンピオン。前回から出場。

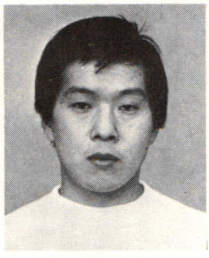
秋山，小島（三度目）ら6選手

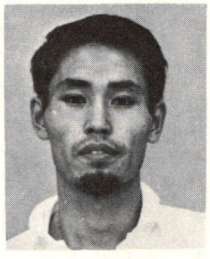
第9回トマス杯日本代表チーム決まる


板垣監督


宮永コーチ


秋山選手


小島選手


栂野尾選手

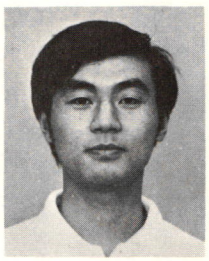
初出場は今泉と池田

第9回トマス杯男子世界選手権大会のアジア東地区決勝、対マレーシア戦（10月7日、8日東京・代々木第二体育館）に参加する日本代表選手団八人が決まった。

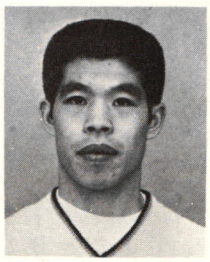
選手は規定により六人で、第七回大会から三度連続出場というベテラン秋山真男（自営＝秋山紙店）小島一平（ヨネヤマラケット）を中心に、前回に続いて代表権を得た栂野尾昌一（ヨネヤマラケット）本間順次（トヨタ自工）それに、大きな国際経験は初めてという今泉勉（高岡市役所）池田信孝（電電東京）老巧・中堅・新鋭がそれぞれ二人ずつというバランスのよいチーム構成。

一行は九月の東京合宿で決まったもので、役員の板垣監督、宮永コーチはすでに発表ずみ。大会直前の十月早々、東京・青少年センター（東京オリンピック選手村あと）で最後の調整合宿にはいる。

なお、今回のト杯インターゾーンの組み合わせは未定だが、アジア・ゾーン代表は来年二月末までに決まる予定。


本間選手


今泉選手


池田選手

日本代表チーム

……役　員……

〔監督〕**板垣隆房**　33歳、170センチ、58キロ、山形県出身、立教大出、自営。日本協会理事、競技力向上委員、第6回アジア大会コーチ。

〔コーチ〕**宮永武司**　32歳、173センチ、77キロ、東京都出身、慶応義塾大出、明治生命。第6回、第7回ト杯代表、日本協会競技力向上委員。

……選　手……

秋山真男　29歳、166センチ、57キロ、山梨県出身、中央大出、自営。第7回、第8回ト杯代表、全日本単9位、複7位。

小島一平　27歳、160センチ、58キロ、神奈川県、中央大出、ヨネヤマラケット。第7回、第8回ト杯代表、第6回アジア大会代表、全日本単2位、複5位。

栂野尾昌一　25歳、178センチ、65キロ、東京都、法政大出、ヨネヤマラケット。第8回ト杯代表、第6回ト杯代表、全日本単1位、複5位。

本間順次　24歳、176センチ、68キロ、愛知県、中央大出、トヨタ自工。第8回ト杯代表、第6回アジア大会代表、全日本単3位、複6位。

今泉　勉　23歳、163センチ、57キロ、富山県、中央大出、高岡市役所。全日本単5位、複2位。初出場。

池田信孝　24歳、155センチ、55キロ、東京都、法政大出、電電東京。全日本単6位、複1位。初出場。

必勝の信念で

＝ト杯戦を前にして＝

監督　板垣隆房

世界の王座を――これは男子バドミントン関係者の夢であり悲願である。私たちは、この大きな夢に向って、この一月、ナショナル・チームを結成し、同時に合宿にはいった。

この詳細は、すでに本誌でも紹介されているからはぶくが、われわれとしては、単にマレーシアを破るだけでなく、トマス杯を手にするには、どうしたらいいか、という、さまざまな問題を、この合宿の場で考えた。

トレーナーとして献身的努力をしてくれた渡部紘一君、そして参加選手も一生けんめいに考えた。プレーヤーはコートの中だけのことを考えればいい、というのでは、少くともバドミントンの場合、発展がない。協会の一員として、協会に協力し発言し、協会の理解と協力を得るという、相互の循環作用が必要なのだ。

話が横道へそれたが。合宿は本番まで七回行なわれた。基礎体力、基礎技術、チームワークの確認をしながら、段階をへてチームのポイントをしぼり、内容を高めていった。

八月の大阪合宿を最後に、代表選手を決め、合宿はナショナル・チームからト杯チームのそれへと切り換わった。

選手の選定には、いろんな要素を考慮した。まず、マレーシアがどんな布陣で来るかということ、それに対し、日本の布陣はどのような形が望ましいか。個人の実力ばかりでなく、これまでのキャリア、それに二日間9試合に及ぶロングランのため、単複のかけ持ち出場がいいかどうか…。

その結果、決まったのは、選手をシングルス専門、ダブルス専門に分けることだった。そのねらいは、練習で目標をしぼりやすく、チームの総合力を動員するので、体力的な不安が少く相互援助できる、自分の出番に責任を集中できる――ということだった。

マレーシアのラインアップと日本の迎撃体勢については、次の日程を立てていた。

マレーシアは第1単にタン・アイク・ハン、第2単タン・アイク・モン、第3単グナランだろう。これに対し、日本は秋山、小島の両ベテランを配置して必勝をねらう。過去の対戦からしても勝機は十分。三人目は栂野尾、本間のいずれかだ。

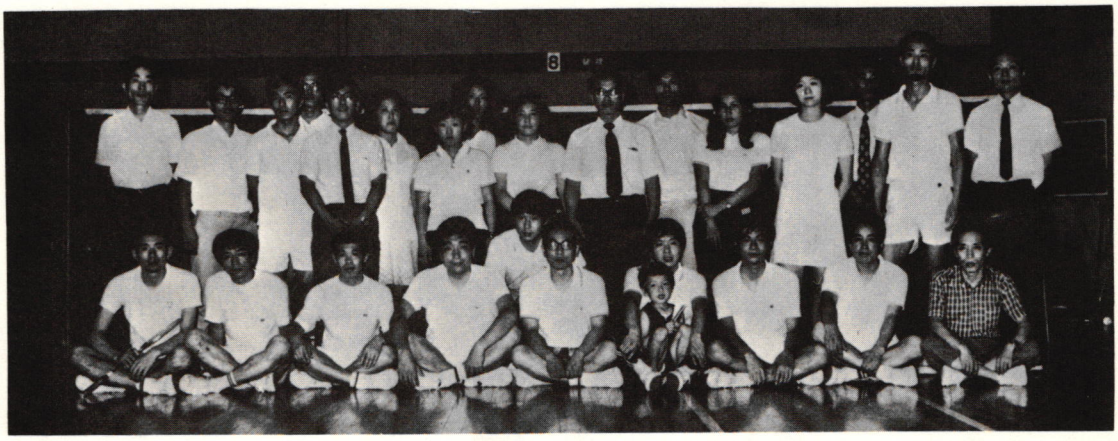
ダブルスはまずウン・ブン・ビーとグナラン組、二組めにタン・アイク・ハンと攻撃力のある新人だろうか…日本は、悪くとも相手の第二ダブルスはつぶさなければならない。

栂野尾・池田組は、栂野尾のシャープなスピードあるプレーに、前衛での池田の好アタックがカギとなるだろう。本田・今泉組はサウスポー同士。大学時代からのパートナーで、コンビの妙を発揮するだろう。

一月のスタート時点では、明らかに日本不利と思えた。しかし、最終的には4：6の劣勢が5：5以上になったものと確信している。選手に「われわれもやれるぞ」という自信が出てきたのが、なによりの収穫だ。

これも合宿先の各地方が、好意的に私たちを援助、ご指導下さったおかげ。これに私たちは〝勝利〟の二字でお礼申し上げたいと思う。末尾ながら、誌上から厚くお礼申し上げます。





三菱電機部員との記念撮影・前列右端が筆者

酷暑の大阪合宿奮戦記報告

日本協会競技力向上委員　佐藤茂雄

一日で体重3キロもダウン

あっと驚く猛烈特訓ぶり

一日に体重が3キロもダウンした——信じようと信じまいとこれは事実。ト杯対マレーシア戦をめざす日本チームは、第四次合宿を七月二十日から二十七日までの八日間、初の関西は三菱電機伊丹製作所で行なった。

参加者はト杯候補七人を中心に、連日〝二十四時間体制〟で練習〝本番〟にむかって多大の成果を収めた。

三十度を越す炎熱下での合宿は異例のことだが、この特訓で、選手たちの体重は一日で3キロも減ったのだ。

午前6時半起床。トレーニング開始。初日からエンジン全開の激しい練習が続いた。過去に前例のない酷暑の折りの強化合宿。汗が滝のようにしたたり落ちる。

十人いたナショナル・チームのメンバーを七人に縮少した、ということが、各自の〝厳しさ〟に対する認識を新たにした。みんな、自覚に燃え、その決意のほどを持ってこの合宿に参加しているようすが、ありありとうかがわれる。

練習におけるチームは、ひとことでいうと、全身これ闘志のかたまりであった。板垣監督、宮永コーチはじめ、全員の目の輝きがちがっていた。

初日はRSLのシャトルを使用したため、最初、多少のとまどいが見られたが、さすがは日本の一流プレーヤー、一、二時間ほどでシャトルのクセにも慣れた。終了午後6時。十二時間労働である。

目があかないよ

宿舎に帰り、体重を計る。全員平均して3キロやせていた。驚いた。62~63キロがコンスタントだといっていたベテラン秋山でさえ60キロを割っていた。翌二日目終了では6キロ減だった。信じられないような数字だった。

女性たちが聞いたら「わぁ、うらやましいわぁ」と声をあげたかもしれない。しかし、適当な運動の結果、やせたのならいざしらず、苛酷なまでの特訓と暑さがその原因なのだから、うらやましいどころの話でない。

午後一時間か一時間半、昼食後に休憩するのだが、全員、即座にダウン、熟睡である。起こされるまで、だれ一人として目のあくものはいない。さほどに体力を消耗しきっていた。同じことが最終日まで続いた。

監督、コーチがみずからラケットを持ち陣頭指揮。二対一、シングルス、ダブルス…と数少い選手に、いささかの休憩も与えず、コートの中に釘づけにした。参加者の少ない合宿は、ややもするとマンネリ化しやすいものだが、この合宿では地元選手の参加が非常にフレッシュな雰囲気をつくり、お互いの〝やる気〟を起こさせた。

カつけた第三の男

なかでも岩田（旧姓山口）滝野組のダブルスは非常に変則的なプレーをやり、代表選手たち

に互角で肉迫する場面もしばしば見られた。効率の高い合宿であったといえよう。

連日のモーレツ特訓で、全員の力がグンと伸びたが、なかでも梅野尾、本間が力をつけたように思う。秋山、小島はさすがに貫録を示していたが、加えて梅野尾、本間、鈴木の長身選手が、この両者に追いつけ追い越せの域に成長した。

ダブルスも軌道に

これで第三シングルスの層が厚くなったが、ナショナル・チーム結成時からの大きな課題だったダブルスも、メドがついてきた。池田・梅野尾組、本間・今泉組が、それぞれ首脳陣のねらっているコンビ、すなわち対マレーシア戦用の速攻タイプに仕上ってきたことが、なんといっても心強い。

シングルスは、激しい競争でなんとなく、よい意味で〝余った〟感じになってきた。監督、コーチは、逆に選手起用をめぐって、頭が痛くなるだろう。

そのほかにも、いろんな収穫があった。合宿を通じて、一般の人々にバドミントンの理解が深まったことである。

第4次強化合宿参加者

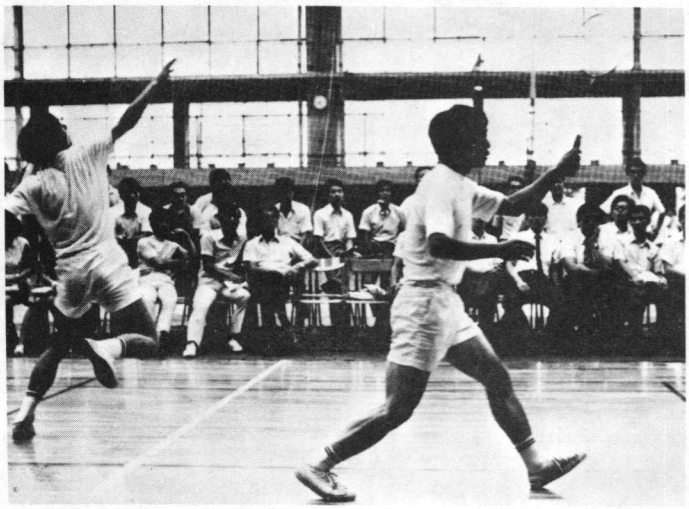
▽板垣監督、宮永コーチ▽日本協会競技力向上委　越川委員、佐藤茂委員

▽ト杯候補選手　秋山、小島、鈴木、池田、梅野尾、本間、今泉▽ナショナル・チーム選手　宮川

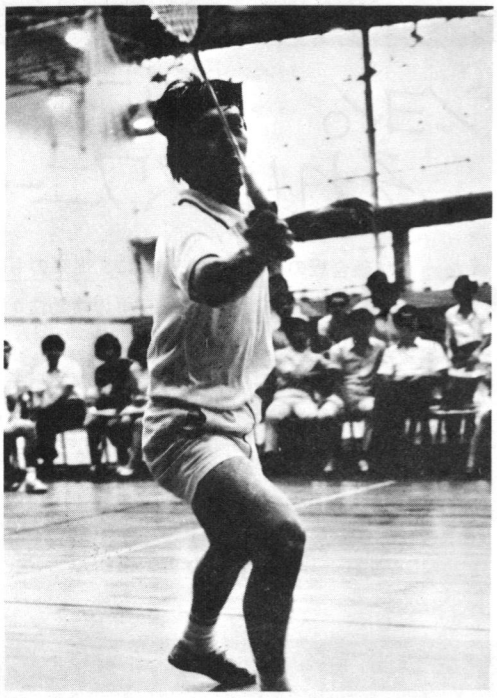
▽地元参加選手　岩田（旧姓山口）滝野、鷲尾、植田

合宿訪問者

▽兵庫県協会　吉持理事長、北副理事長▽大阪協会　石渡会長、瑠東副会長、青木理事長▽大阪合繊、大一スポーツ善塔氏



模範試合の熱戦から　(上)本間・今泉のダブルス　(下)単のエース小島



成果あげた模範試合

七月二十四日夕刻、三菱電機の社員約三百人が観戦するなかで、模範試合が行なわれた。シングルス秋山×小島、ダブルス池田・梅野尾×本間・今泉。各2ゲームずつだったが、選手たちは本番顔負けのデッドヒートを演じ、館内をゆるがせたどよめきと拍手のうちに「これがバドミントンだ」という、文字どおり〝模範〟を見せた。

三菱電機のバドミントン活動（とくに女子）はなかなか盛んである。しかし、この夕べの観戦者のうちには浅い認識しか持たない人も多かったろう。が、模範試合は、そうした人々の心までとりこにした。

一人でも多くの人にバドミントンを正しく理解してもらいたいと、常に望んでいる我々にとって、この合宿は、その意味でも大成功だった。

是非とも勝たせたい

ひたむきな選手の姿を見ながら、マレーシア戦は是非勝たせたい、勝ってもらいたい、と心から思ったものである。

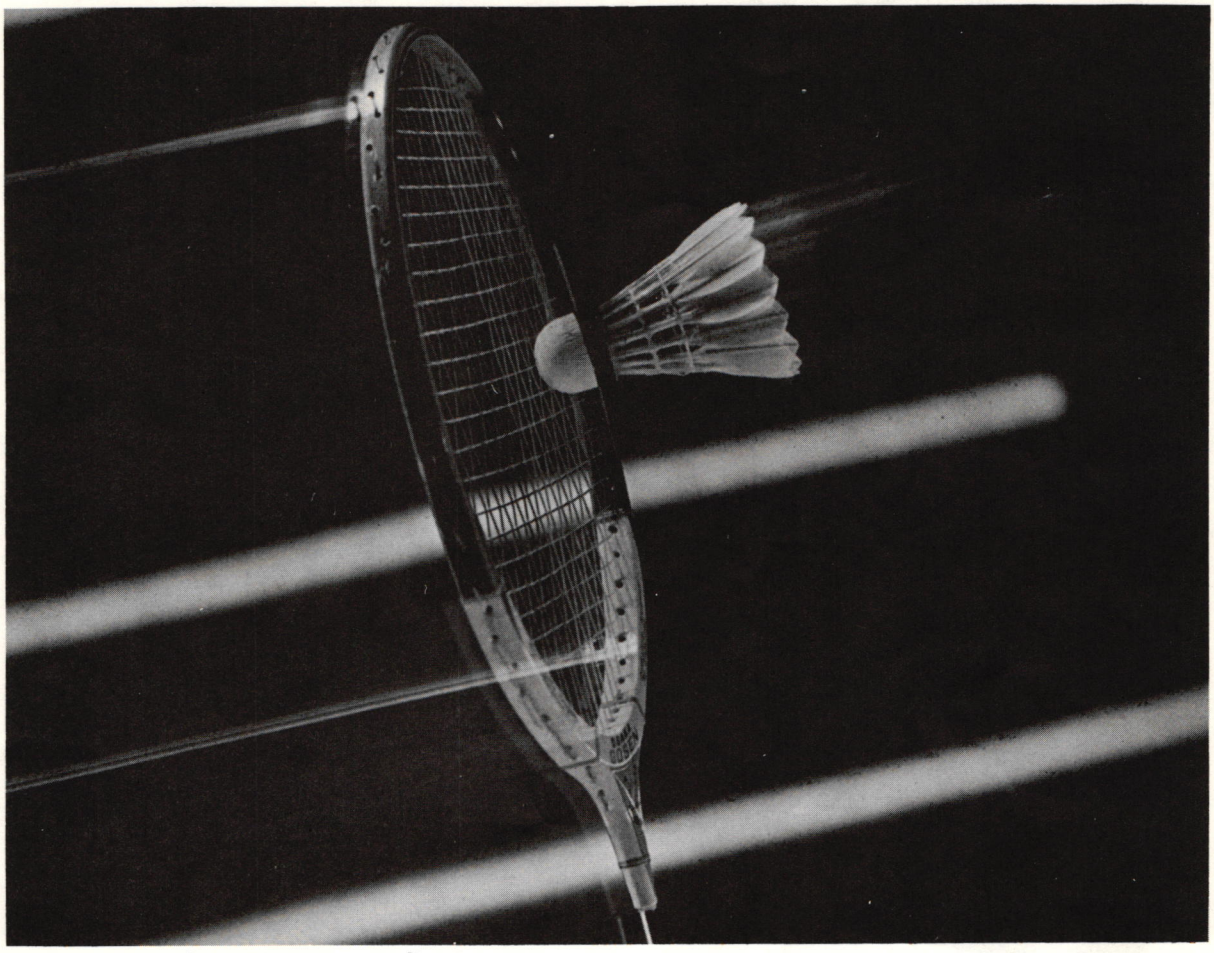
女子が世界一の王座を保持しているだけに、もし今度負ければ「バドミントンは女のやるもの」との偏見がハバをきかせるようにならぬとも限らない。

せっかく台頭し、支持者のふえてきたこの競技が、あと戻りするようではならない。幾多の少年少女プレーヤーの夢を破らぬためにも勝ってほしい。

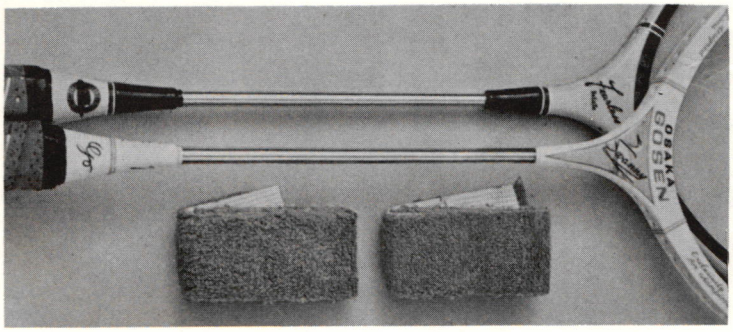
末尾ながら、暑い中を激励され、陣中見舞までいただいた関係各位、自分たちの練習を犠牲にしてまで我々の面倒を見て下さった三菱電機部員の方々のご厚情、そして、すばらしい環境を提供して下さった三菱電機伊丹製作所のご厚志に、心から御礼申し上げます。

《新発売》

Swannv



この確かなバイブレーション。
それはスワニー。



特殊合板の力強いフレームに、従来のものより長いステンレス・シャフトの強靭性が強力なバイブレーションを生み、重さも122g以下と今までより軽くなり、それがスピードとパワーの素晴しいバランスを構成し、ふりもシャープな一級品ラケットをつくりました。

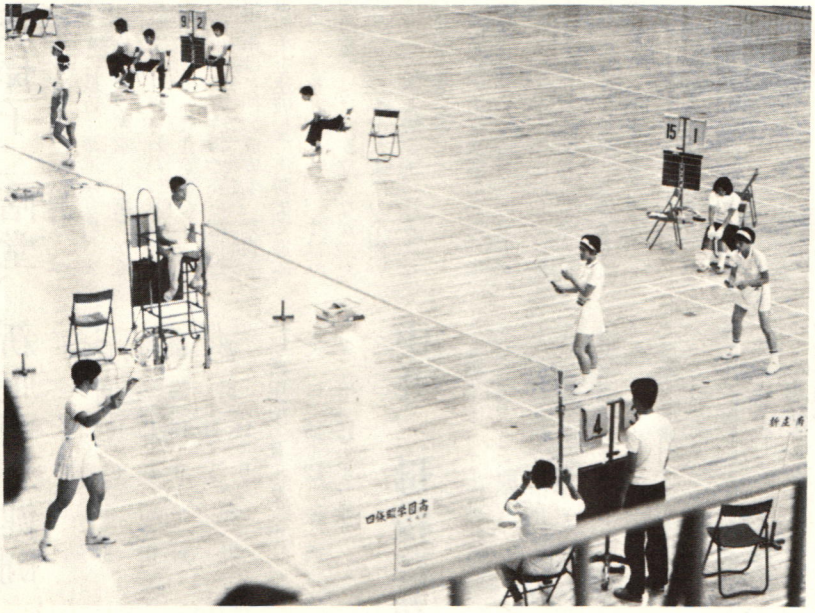
No.β スワニー〈フレーム・カバー付〉 ¥3,800

☆お買い上げになりますとタオルグリップがついています。

大阪合繊株式会社
本　社・大阪市東区豊後町4 ☎(06)942-5816 代
東京営業所・東京都台東区鳥越1-26-1 ☎(03)862-6576 代

四条畷、また完全優勝

全国高校選手権　男子正強もパーフェクト



昭和47年度全国高校総体のバドミントン選手権大会（第23回）は8月1日から6日間、山形県新庄市で開かれた。上位進出校（選手）は前年と大差なかったが、男子では奈良・正強が断然強く団体に二連勝。同校のエース中井基夫選手は個人戦のシングルス、ダブルスも制して〝三冠王〟に輝いた。

一方、女子では大阪・四条畷学園が圧倒的だった。団体戦は無失点で勝ち進んでやはり二年連続優勝、個人でも秋本幸子が単複タイトルをとり〝三冠王〟となった。前年度には秋本の姉八代美選手が三冠を手にしており、姉妹で連続の快挙。四条畷学の完全優勝も二年連続。

（記録詳報は次号に掲載）

正強、危げなく二連勝

地元勢も気を吐く

団体戦男子には47校が参加した。優勝の奈良・正強は2回戦（1回戦不戦勝）で第1シングルス南田が千葉・成田農の大森にストレート負けする誤算があった。また準決勝では第2ダブルスの池田・山下組が金沢市工勢にフルゲームで敗退したが、取りこぼしはこれだけ。エース中井の単複にわたる活躍で、危げなく栄冠にたどりついた。

前年二位の日大山形は準決勝で岐阜東に接戦で敗れた。しかし地元山形勢は県山形工もベスト8を確保、気を吐いた。

男子学校対校

▼準々決勝

正強　3－0　県山形工（奈良）
金沢市工　3－1　新潟商（石川）（新潟）
岐阜東　3－2　高岡商（岐阜）（富山）
日大山形　3－0　市一条（山形）（奈良）

▼準決勝

正強　3－1　金沢市工

中井　15－4　原
南田　15－9　9－15　林
池田　6－15　山下
山下　15－10　谷島
中井　15－9　原
南田　8－15　林
岐阜東　3－2　日大山形
後藤　15－4　工藤
角田　15－12　三浦
古西　12－15　大山
小場　15－2　吾妻
後藤　15－10　安田

▼決勝

正強　3－0　岐阜東

中井　15－10　古西
南田　15－5　小場
池田　15－4　後藤
山下　8－15　15－12　角田
中井　15－7　17－16　古西
角田　15－11　三浦
古西　15－7　15－4　工藤

我孫子二階堂、新庄南が健闘

団体戦女子の参加は49校。ベスト4に最近、躍進ぶりめざましい我孫子二階堂（千葉）がくい込んで注目された。来年の千葉国体には〝要注意〟だ。

前年、準々決勝で姿を消した新庄南は名門の成安女、奈良・市一条を連破して決勝まで進みスタンドをわかせたが、やはり四条畷学には歯が立たなかった。新庄はこのチーム戦に力を使いはたし、個人戦が尻つぼみになったのは惜しい。

四条畷の力は抜群だった。準決勝、我孫子二階堂との第1ダブルスで1ゲームを許したほかは、優勝まで単複すべての試合にストレート勝ち。秋本を単で温存しても優勝できたろう。

女子学校対抗

▼準々決勝

四条畷学（大阪） 3－0 山陽女（岡山）
我孫子二階堂（千葉） 3－1 敬愛学（秋田）
市一条（奈良） 3－1 真岡女（栃木）
県新庄南（山形） 3－1 成安女（京都）

▼準決勝

四条畷学 3－0 我孫子二階堂

○秋本 9－15 斎藤
○徳田 15－8 瀬野
○高田 15－12 山田
○諸橋 15－9 平野
○徳田 11－1 瀬野
○矢口 15－12 仲西
○今田 15－4 乾

○本間 15－5 原田
○小野 15－1 狭川
○今田 12－9 仲西

▼決勝

四条畷学 3－0 県新庄南

○徳田 18－15 矢口
○秋本 15－8 今田
○高田 15－6 本間
○諸橋 15－9 小野
○秋本 11－5 矢口

中井、母校に花そえる三冠王

高校では〝一年〟の年齢が大きく影響する。前年ベスト8にもはいれなかった中井は三年のことし断然強くなった。シングルスではすべてストレート勝ちそれもゲーム10点以上を許したのは準々決勝だけ。二年来のコンビ南田とのダブルスも準々決勝以外はストレート勝ち。団体と合わせ初の〝三冠〟を達成。

◇男子シングルス

▼準々決勝

中井（正強） 15－11, 15－3 秋葉（山形工）
須藤（東奥義塾） 15－11, 15－5 栗原（桐生市商）
辻（添上） 15－6, 15－10 後藤（日大鶴丘）
原（金沢市工） 15－4, 12－15, 15－12 角田（岐阜東）

▼準決勝

中井 15－6, 15－2 須藤
辻 15－10, 12－15, 15－11 原

▼決勝

中井基夫 15－5, 15－2 辻敏弘

◇男子ダブルス

▼準決勝

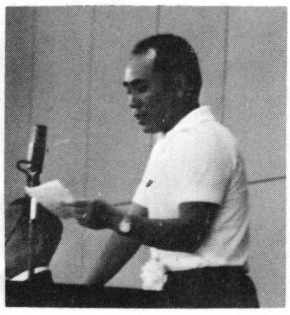
秋葉 15－8, 15－10 原
三井（山形工） 15－10 林（金沢市工）
中井 15－11, 南田 15－8 渡辺 菅野（正強）

▼決勝

中井基夫 15－4, 15－8 秋葉博
南田義正 三井幸嗣

大会をかえりみて

大会競技委員長　遠井稔男



○新設の会場

大会のため新庄市では三億近い巨費を投じ、第一会場として12コートの大体育館を新設した。ほかに市内の中・高校4会場体育館に12コートを整え、過去にない立派な設営だった。

○日程の一日短縮

競技日程を一日短縮、五日間とし、役員動員や諸費の軽減をはかった。高体連の提唱する大会規模適正化にも寄与できた。

団体戦が一日減り、二日目の日程が心配されたが、試合数や選手の疲労度など、特に問題はなかった。閉会式終了が午後8時半になった点を今後、再考すれば、まずはよかろう。

○皇太子ご夫妻ご観戦

八月三日、皇太子様ご夫妻を第一会場にお迎えした。44年桐生大会以来のご観戦。団体戦準々決勝を37分間ごらんになった。総体実施29競技の中で、多忙なご日程を割いていただけたことに関係者一同感激した。

ご案内の川田部長も両殿下の競技のご認識のこまやかなることに驚かれていた。特にショートサービス、サービスジャッジのことなどおたずねになられたとのことです。

○バドの町・新庄

新庄市は以前からバドミントンが盛んで、市民の間に広く浸透している。県新庄北・南高のOB、OGからなる地元組織の結束も強い。こうしたことを背景に、県と市の協会がカナメとなり市職員の精力的連携のもと、実行委員会の仕事が進められた。万事円滑に運営されて苦情もなく、近来になくすがすがしい健康的な雰囲気だった。

市協会は小中学生を対象とする〝すずかけバドミントン教室〟の開設など、底辺指導を重視している。また一方、新庄南高がこの大会で三度も決勝進出を果たしていることでもわかるように、トップの強化にも成功している。地方協会の下部組織再検討が叫ばれる時、山形県はもち

秋本も無失点で〝三冠〟飾る

女子　姉につぎ連続の快挙



上は秋本(右)徳田，下は中井(右)南田



四条畷学の秋本幸子は前年の姉八代美についで輝く〝三冠〟を達成した。団体戦同様、単複ともすべてにストレート勝ちし落としたゲームは一つもなかった。大変なものである。姉以上の大器になりそうだ。下に高一の妹がおり、〝三姉妹〟は近い将来、日本中に旋風を巻き起こすかもしれない。

反面、女子は期待された新庄南勢が一人もベスト8に残れずそのせいか、ラウンドが進んだ段階でもワンサイドゲームが多く、関係者を落胆させた。

◇女子シングルス

▼準々決勝

秋本（四条畷学）11－8 桜井（尼崎）
沼能（真岡女）11－6 樋口（長崎商）
徳田（四条畷学）11－1 石渡（平塚商）
本田（千葉学）11－6 弓削（熊本中央女）

▼準決勝

秋本 11－1 沼能
徳田 11－5 本田
11－5

▼決勝

秋本幸子 11－2 徳田敦子
12－11

◇女子ダブルス

▼準決勝

諸橋 11－15
高田 17－14 矢口
15－11 今田
（四条畷学）（新庄南）
秋本 15－5 三田
徳田 15－1 寺見
（四条畷学）（山陽女）

▼決勝

秋本幸子 15－6 諸橋典子
徳田敦子 15－1 高田幹子

ろん、新庄市協会は一つの手本でもあった。

○敗者審判の実施

敗者審判制は前年からの新しい試みだがやや抵抗があった。しかし、高校生の自主性の育成を考え、大会を教育の場という意味合いでとらえるとき、是非ともこれを軌道にのせたい。参加の監督、選手は審判技術の向上につとめ、三級公認資格を取得していただきたい。

○換気の励行

例年のごとく、会場はムシ風呂的だった。地理的条件、観客が多かったことも手伝ったようだ。だが、その対策もできていた。大会ドクターが毎日出勤、酸素や炭酸ガスの濃度測定にあたった。

濃度が一定限度に達するとドクターストップがかけられ、競技委員長は競技を中止、五分間窓を全開し、選手の健康管理をはかった。酸素が不足すれば脳や心筋の機能が低下する。心しなければいけない問題である。

○近畿勢の大勝

男子は奈良県の正強、女子は大阪府の四条畷学園が、それぞれ三冠王となった。近畿勢の文句のつけようがない大勝であった。完全試合は谷口、片岡両監督の采配に負うところが大きいだろう。しかし、選手の技術、体力、精神力三拍子そろったゲームもすばらしかった。どこにも不安が見られなかった。

特に正強・中井選手は長身と柔軟性をよく生かし、速いスマッシュと配球のよさでは他に類がない。永井、岡崎以来の大器と期待を寄せるのは私だけではあるまい。

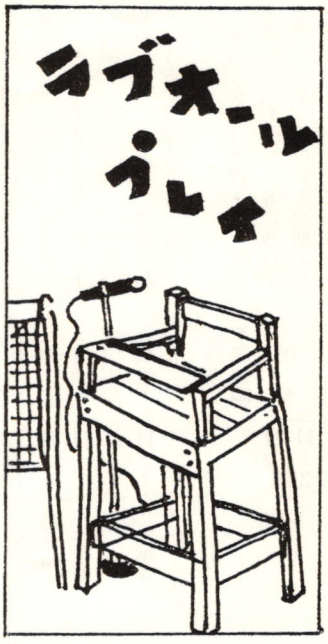
四条畷学の秋本妹の、姉に続いての三冠王は、善通寺の横井姉妹以来のことであり、あっぱれであった。小さい身体をフットワークで補ない、クリアとドロップを上手に使っている点では、横井、秋本姉妹まったく同じタイプである。

強い脚力が、すばらしいムダのない、早いフットワークを生んでおり〝バドミントンは足技から〟といわれる理由を実地に見せてくれた意味でも、貴重な選手である。

いずれにしろ、歴代で三冠に輝いたのは昭和31年、34年の善通寺一高、33年山形市商、38年新潟商、40年、45年富山商、43年東大阪の男女5高だけであり立派なことであった。

地元男女もすばらしく、山形工、日大山形、新庄南、真室川などが健闘した。また、金沢市工、岐阜東などに好選手が多くいずれも覇者を苦しませ、声援に応えたことは称讃に価する。

よく使われる用語　連載④



サ行の項

〈サ行・続き〉

スタンス（Stance）
足の位置、位置どりから、その歩幅。さらに足を基盤にした構え、またはその姿勢などを指す。

スマッシュ（Smash）
原義は粉砕、破産する（動詞名詞ともにあり）の意。高い位置（肩から上）に飛来したシャトルを、思い切り相手コート（または相手そのもの）面にたたき込む攻撃のストローク。
庭球、卓球でも使われる。全身の力をフルに活用した打球でできるだけ角度のあるフライが有効。スピードが生命だが、これにパワー（受けたとき、ずしりと重い感じ）がともなわないと、簡単に勝負ダマにはならない。

セッティング（Setting）
ポイント数が同じになったときゲームを延長すること。バドミントン独特のシステムで、バレー、庭球、卓球などのジュースと同じ。
ただし、いわゆるジュースでは2ポイント差がつくまで延々とゲームが続くが、セッティングでは、勝負を決めるための残りポイントが、あらかじめルールで決められるので、時間的ロスが少い利点がある。セッティングでは、決められたポイントを先にとった方が勝ちで、1ポイント差でもかまわない。
1ゲーム15点の試合では①13点オールで5点②14点オールで3点。1ゲーム11点の試合では①9点オールで3点②10点オールで2点だけ延長する。
セッティングするかしないかの選択権は、先に同点のポイント数に達した側にある。
セッティングすることが決まると、スコアリングのコールは一旦0－0（ラブオール）に戻るが、勝負が決まった時点で、スコアは通算して16－15のように数える。

ソート・アクション（Thought action）
一球、一球を自分の冷静な判断にもとづいて、計画的にプレーすること。いわゆる頭脳的プレー、動作、読み。

タ行の項

ダイアゴナル・システム（Diagonal system）
ダイアゴナルは英語で〝対角線〟のこと。ダブルス・プレーの陣型の一つで、コートを対角線で二分し、一人一人がその三角形の自分の領域を守る。二人がともに守りにくい地域をなくすために考えられた。（注、トップ・アンド・バック、サイド・バイ・サイド、ローテーション・システム等を参照のこと）

ダウン（Down）
サービス・ダウン、サーバーが得点できずサービス権を失なうこと。ダウンはこのほか野球のワンダウン（一死）のように、負けている（またはリードされている）状態を広く指すこともある。反対語はアップ。ワンゲーム・アップ（1ゲーム先行）などという

タッチング・ネット（Touching net）
日本語では普通ネット・タッチといわれている。単にタッチともいう。ネットにラケットやからだの一部分が触れることで、ヘアピンやサービス球を焦ったときによく起こる。反則。

ダブルス（Doubles）
四人が二人ずつの組に分かれて行なう試合。片側コートにはいるのは二人（つまりダブル＝シングルの倍、対ともいう）だが、相手があるから、単数でダブルと呼んではいけない。ダブルの対戦だからダブルスというのが正しい。日本語で複ともいう。

ダブルヒット（Double hit）
いわゆるドリブルのこと。一回のストロークで、シャトルを二度（それ以上のケースもあり得る）打つこと。完全なレシーブ（打ち返し）ができないときは、ラケットの打面上を、シャトルが走った状態になり、二度打ちがおこりやすい。反則。

デセプション（Deception）
だます（デセィーブ）の名詞プレー中に自分の動きやストロークの意図をさとられぬよう、相手をうまくあざむくこと。

トスサービス（Toss service）
シャトルを軽くほうり上げて落下してきたところを打つサービス。あまり高くあげるとコースを読まれたり、相手に余裕を与えたりすることになる。
試合開始前に、コインをほうりあげて、その裏表でサービス権とコートの選択を決めることをトスというが、これは「軽くほうり上げる」というトスの原義から来たもの。

トップ・アンド・バック（Top and back）
ダブルス試合のフォーメーションの一つ。一人がコートの前半分（前陣）一人が後半分（後陣）に位置し、おのおのの区域に飛来したシャトルを責任をもってカバーする。
左右にゆさぶられたときには守備に多少問題があるが、一般的には攻撃的な陣型。混合ダブルスでは女子を前に、男子をうしろにしたこの型が多く見られる。日本語で〝前衛後衛型〟。

大会運営規定100問集

〈新連載〉 第1回

日本教職員連盟監修の「バドミントン・ハンドブック」第二編として〝大会運営規定100問集〟が完成、刊行された。

大会運営規定[7]　そんなのオレに関係ないや——こう考える愛読者もいるだろう。たしかに一つの大会を運営するのは、いわゆる役員たち。一般プレーヤーは、そこで決まった方式に従って申し込み、試合に出ればそれでいいのだ。

だから、そんな面倒なことは役員にまかせておけば、ということもできる。だが、ちょい待ち、この規定をよく読むと、プレーヤーが知っておかねばならぬことが実に多く書いてある。

ある大会に出られる資格、シード、組み合わせ、ランキングはどう決まるか、プレー中に問題が起きたとき、どう処理されるか、プレーヤーは異議申し立てができるのか、使うシャトルなどはどうなっていますか…。

今回から始まるシリーズの大要ぐらいのみこんでいなければ一人前の選手といえない。同様に、全国各地で役員として働いている人、審判の資格を持っている人、監督、コーチの方々なども、規定全般を、よく知っておいてほしいと思う。

では、スタート。

× × × ×

(1)大会運営規定の成り立ち

（規定1～3条）

問1　大会運営規定というと一体、どんな規定なのですか

答　これは第一編でお話しました競技規則と同じように、日本バドミントン協会のルールの一つです。競技規則とこの運営規定を合わせて、大会や試合の運営のよりどころにするものです。

13章に分かれていますので、その各章の標題にずっと目を通してみると、大体の骨組みがわかると思います。

①総則　②大会　③要項　④役員　⑤審判員　⑥競技者　⑦会場　⑧シャトルおよびネット　⑨組み合わせおよびシード　⑩表彰　⑪異議申し立ておよび質問　⑫記録およびランキング　⑬付則

問2　この規定は日本バドミントン協会がつくったのですね

答　そうです。今のような骨組みになったのは昭和三十五年で、一月の日本協会の定期総会で承認され、その年の四月一日から実施されました。

問3　それより前は規定はなかったのですか

答　いや、ありましたよ。昭和二十七年に発行された日本協会の年鑑にはおさめられています。今のものよりずっと簡単で条項の数も少いものでした。

この年鑑はその翌年に赤い表紙になって出されましたが、その後、三十八年まで発行されませんでした。この赤表紙の年鑑には競技規則や大会運営規定のほか、日本協会の数々のルールがおさめられていましたので、昭和三十八年までの十年間「赤本」と愛称し、大変便利がられまた親しまれたものでした。

この赤本にのっていた大会運営規定は、今の日本協会副会長森友徳兵衛氏が当時、常務理事をされており、その森友常務理事が中心となってつくり出されたということです。

初めて新しいものを生み出すということは大変な仕事ですがこの旧規定は実によく出来ていて、読むたびに感心させられる立派なものです。

問4　それがなぜ改正されたのですか

答　わが国のバドミントン技術が非常に進歩したこと。ラケットやシャトルなどの用具、また体育館の設備が大変に改善されたこと。実力のある審判員が数多く育てられたこと。それに国際試合もしだいに活発になってきたこと。この四つが昭和三十五年の大改訂の主な理由です。

問5　これからも改正されることがあるのでしょうか

答　小さな変更は、昭和三十五年の翌年から、たびたびされてきました。また昭和四十七年には全面的に検討し直されました。しかし、大まかな骨組みは昭和三十五年以来、ずっと変わっていません。

なお、競技規則が変わったために運営規定と合わなくなった場合には、運営規定の方を改訂しなければなりません。

また、この規定を変更するには、必ず日本協会の総会にかけることになっています。

問6　この規定で運営するのは日本協会の主催する大会だけですか

答　日本協会が主催または主管する大会は、もちろんこの規定に基いて運営されますが、日本協会に加盟している各団体が主催する競技会も、できる限りこの規定によって運営されることになっているのです。

日本協会に加盟している団体というのは47都道府県のバドミントン協会と実業団・教職員・学生の3連盟のことですから50団体になります。

また最近、学校体育の中にもバドミントンが大きく取り上げられるようになってきましたが校内での大会を開くときなどにも、この規定に従って運営するように心掛けて、正しいバドミントンを身につけることが望ましいですね。

大会運営規定とはなにか

選手も必ず知っておきたいルール

この大会運営規定100問集は一部百八十円、左記で取り扱っています。百万人のプレーヤー必携の書として一冊、お求め下さい。

◎東京都練馬区旭丘一の五一
日本教職員連盟、前田耕作方
（送料別）

〔例1〕

審判用紙

大会名　No.25県選手権大会第二次予選
日　時　72．5．28
会　場　七ヶ浜町体育育館　営体
種目・試合番号　B　S　15　　コート番号　1

選手名　古川　（学院）　2　(17－14 / 15－4 / －)　0　選手名　阿部　（東北）

（第1ゲーム）

古川　（学院）	0	1	2					2	3	4	5	6	7				7	8	9	
阿部　（東北）				0	1	2	3							3	4	5				5	6	7	8	9
		9	10		11	12	13	14						0	1	2	3							17
	10			10					10	11	12	13	14											14

研究材料として生かすことが大切

バドミントン・スコアの記録法

公式の記入法はない——各人で工夫しよう

さきごろ「スコアのつけ方を教えてほしい」という読者からの要望がありました。そこで、一般に行なわれている記録法などを紹介しながら、どういうつけ方をすれば、その試合がよくわかるか、皆さんといっしょに考えてみたいと思います。

というのは、スコアのつけ方については、公式のものは、なにもないからです。これはバドミントンに関する諸規則のどこにも書かれていない、ということで、おわかりいただけるかと思います。

なぜ、ないのか——と質問されても、正直なところ、編集部にもわかりません。野球などでは、ピッチャーが何球投げたか、そのうちストライクは、カーブは何球か、ある打者の安打は、盗塁は、失策は…と、ほとんどすべての項目が、公式記録を克明に積み重ねることによって、統計的にわかるよう、整備されています。

野球は記録のデータを重んじますが、これによって選手の特質なり能力なりがよくわかると同時に、記録そのものが、選手たちの目標（何百三振をとるとか、何百ホーマーを打つとか）にもなっています。

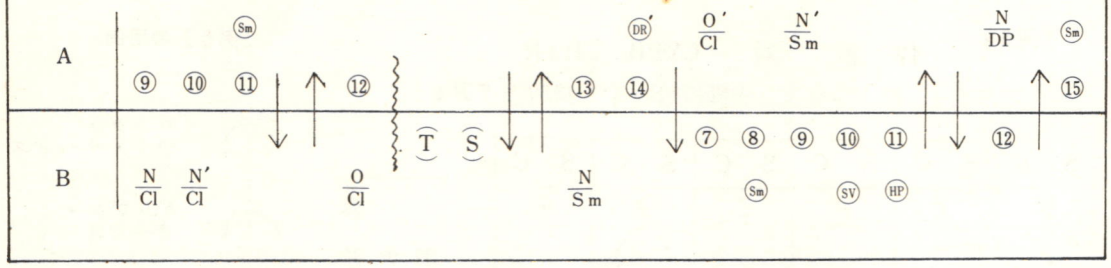
では、バドミントンに記録は不必要でしょうか。そんなことはありません。記録のとり方によっては、やはり、各選手の傾向なり力なりを浮きぼりにできるはずですし、心理的な面までもさぐり出すことができます。また、どうして自分は負けたのか、相手を倒すにはどうしたらいいのか、という研究の糸口をつかむことも可能でしょう。

といっても、これはあくまで理屈です。バドミントンのプレーは、ポイントが成立するか、サービス権が移動するかの時以外は、いわゆるラリーが続いて目まぐるしくシャトルが行き来しています。

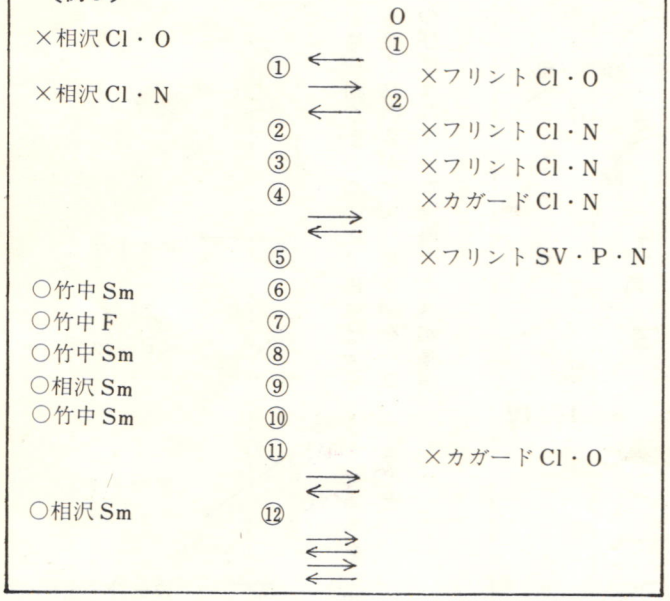
ですから、野球のように克明なデータ追及は実際にはとてもむずかしい。というより不可能かもしれません。たとえばスマッシュで得点したとしても「サービスがどこに放たれ、それがどうレシーブされ、どんなラリーのすえに、そのスマッシュでエースをとることができたか、わからない限りは意味がない。むしろ大切なのは、途中のシャトルの往復である」（中山紀子選手）という意見すらあるくらいです。

たしかに、その通りですが、できればそこまで追及する努力をする一方、もし、そこまでできなくても、ある程度のデータを集められるようなことを考え

〔例２〕



〔例３〕



〔例２－４の略号〕

Cl＝クリア，N＝ネット，Sm＝スマッシュ，DR＝ドライブ，DP＝ドロップ，SV＝サービス，HP＝ヘアピン，cut＝カット。

（′）はバックハンド，O＝アウト，R＝サーブレシーブ，P＝プッシュ，⇄サーブ権移動，X＝失点。

るのは、プレーヤーとして、役員として、やはり大事な姿勢だと思います。

さて前ページの〔例１〕は、審判用紙といって、審判が各試合の得点経過を記入し、終了後勝者の署名を求めて、試合が有効に成立したことを確認するためのものです。

ごらんのように、この記録法では、得点の推移しかわかりません。得点のところでタテに引いてある線は、サービス権の移動を示します。

実例は宮城県協会が本年七月から公式試合で実施するよう荘司審判専門委員長名で出した説明書の〝記入例〟です。これはあくまでも審判のためのものですから、これでいいのですが、もっとくわしくやりたい人は、このワク内に、自分でストロークの略号をつくり、記入していけばいいわけです。

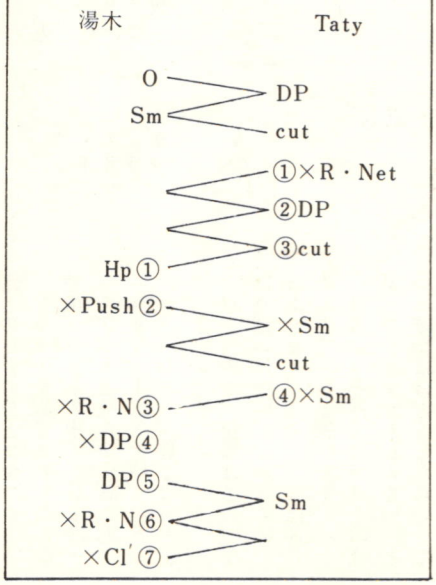
〔例２〕は、ややくわしい一例です。ヨコ線でサイドを分け各サイドに得点（マル数字）とそれを決めたストロークの種別を書きます。Aサイドの９点目はBのクリアのネット、10点目は同じくバックハンド・クリアのネット、11点目はAのスマッシュです。～のあとの（T）はBサイドのタイムアウト（実は足をくじいた疑いがあるため）（S）はシャトル交換です。

〔例３、４〕は〔例２〕をタテに書いたものです。前の要領で判断できると思いますが、実際には、この中にいくつかのコメント（評の材料になるもの）をメモしておきますので、これが、かなり役立つことになります。

この三つの例は、新聞記者の多くが、自分の心おぼえのためにつけているものの代表的な例で、テニス、卓球、バレー、バスケットなどで経過をメモするのも、大体、これと似たやり方でやっています。

以上よりもくわしいのが次のページの例です。これは伊藤基記先生の著書「バドミントン上達法」から拝借した実例。一九五七年のト杯遠征のさいの、香

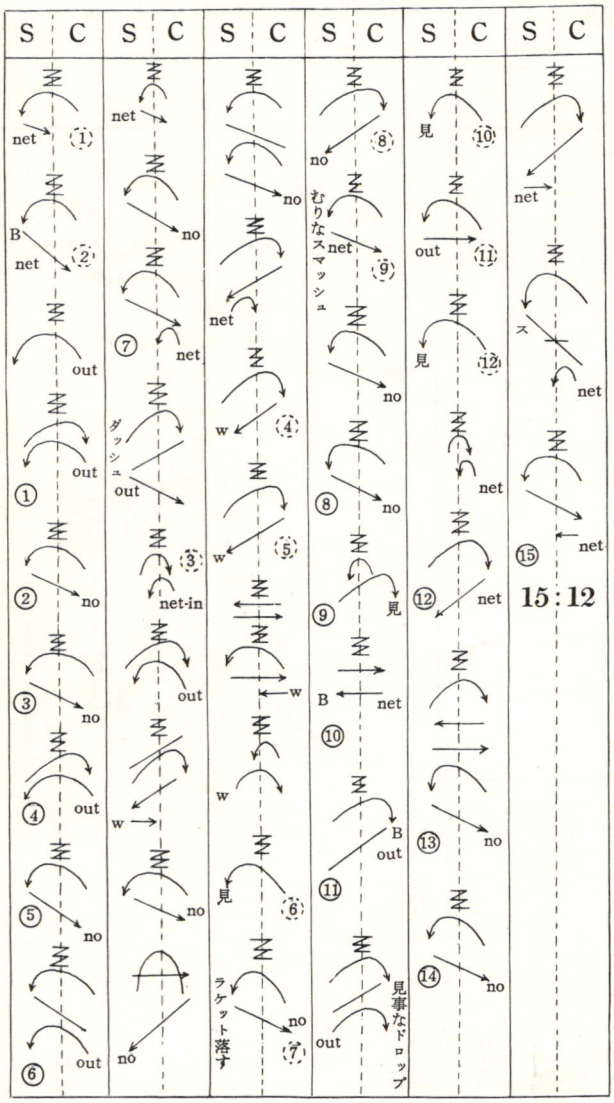
〔例４〕



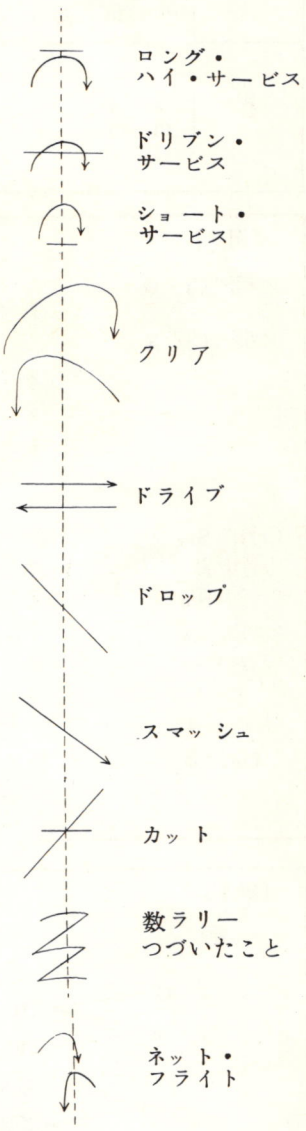
〔例5〕

佐藤　対　CYRIL. CHAN

シングルス　第1セット　香港に於いて（1957年7月9日）



〔例5〕の用例



㊐　どちらも最初固くなっていた。佐藤はスマッシュで得点をかせいだ。チャンも良く食いさがって、日本側をハラハラさせた。羽根ののびになれていない為のミスが多い。

港との試合のひとコマです。

フライトを線で表わしたのが特徴。シートの中で〔見→はインをアウトと見あやまること〕〔no→ノータッチ球〕〔B→バックハンド〕〔W→ウッドショット〕のこと。

以上の中で、記号はこれでなければいけない、というものではありませんので、ここは各人の工夫でいいと思います。

最後に「それでもラリーの経過とフライトがわからない」という苦情にはどうしたらいいでしょうか。

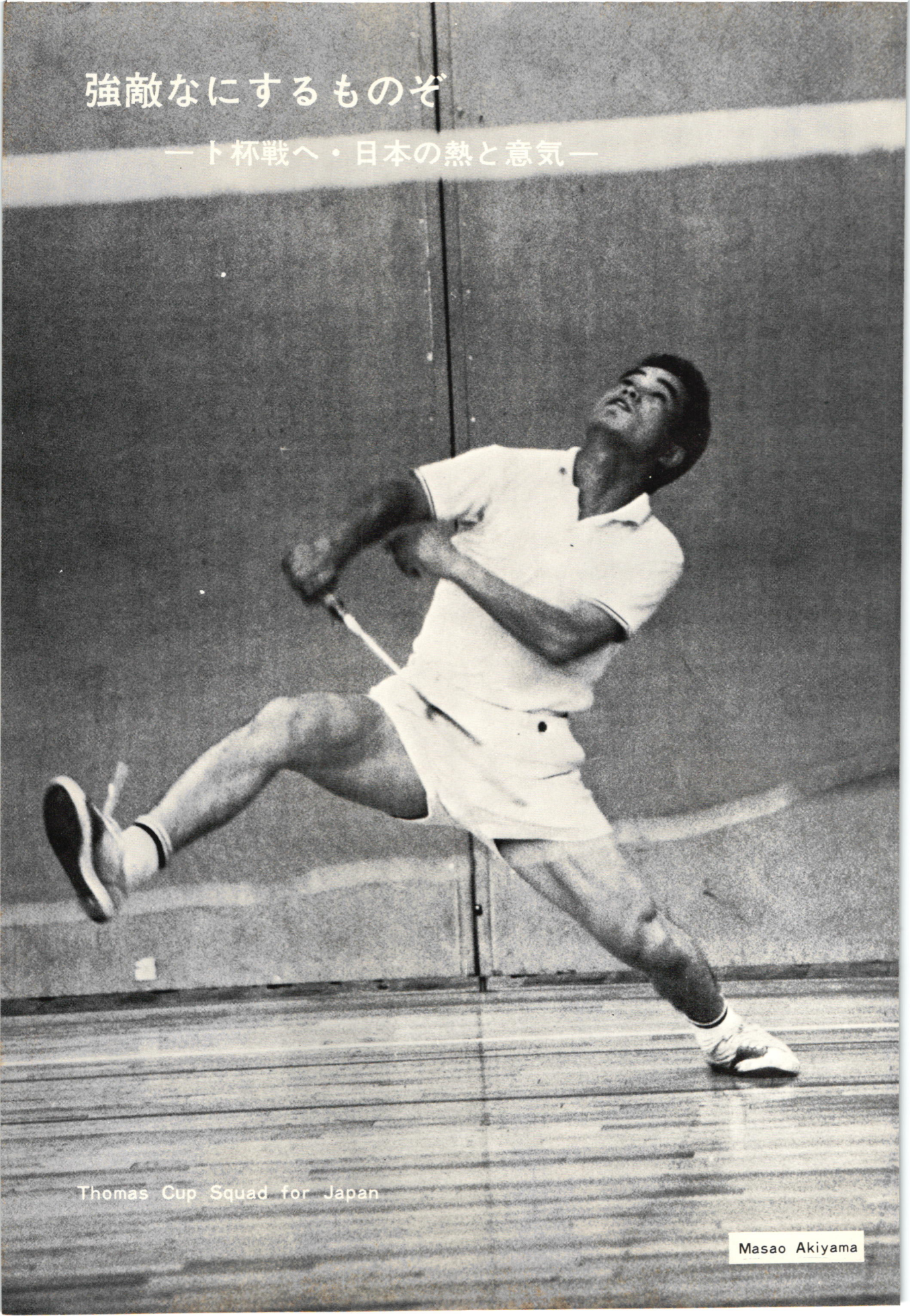
手っとり早いのは、コートの平面図を書いた紙をたくさん用意し、図の上に矢印でストロークの方向と位置をしるし、それにフライトの球種を一本ごとに書くことです。

ただし、これは一枚に1フライトではもったいないので、ラリーが終わるまで記入するとなると、これまた大変。かえって混乱することもあります。

やはり、記号などでやりにくい点は、メモで特色や試合の流れをとっておくしかないのかもしれません。いずれにしても、記録は集計して統計、分析し、生かす努力が大切と思います。単なる得点の流れからだけでもこの人はマッチポイントに弱いなどというのがわかるのです。

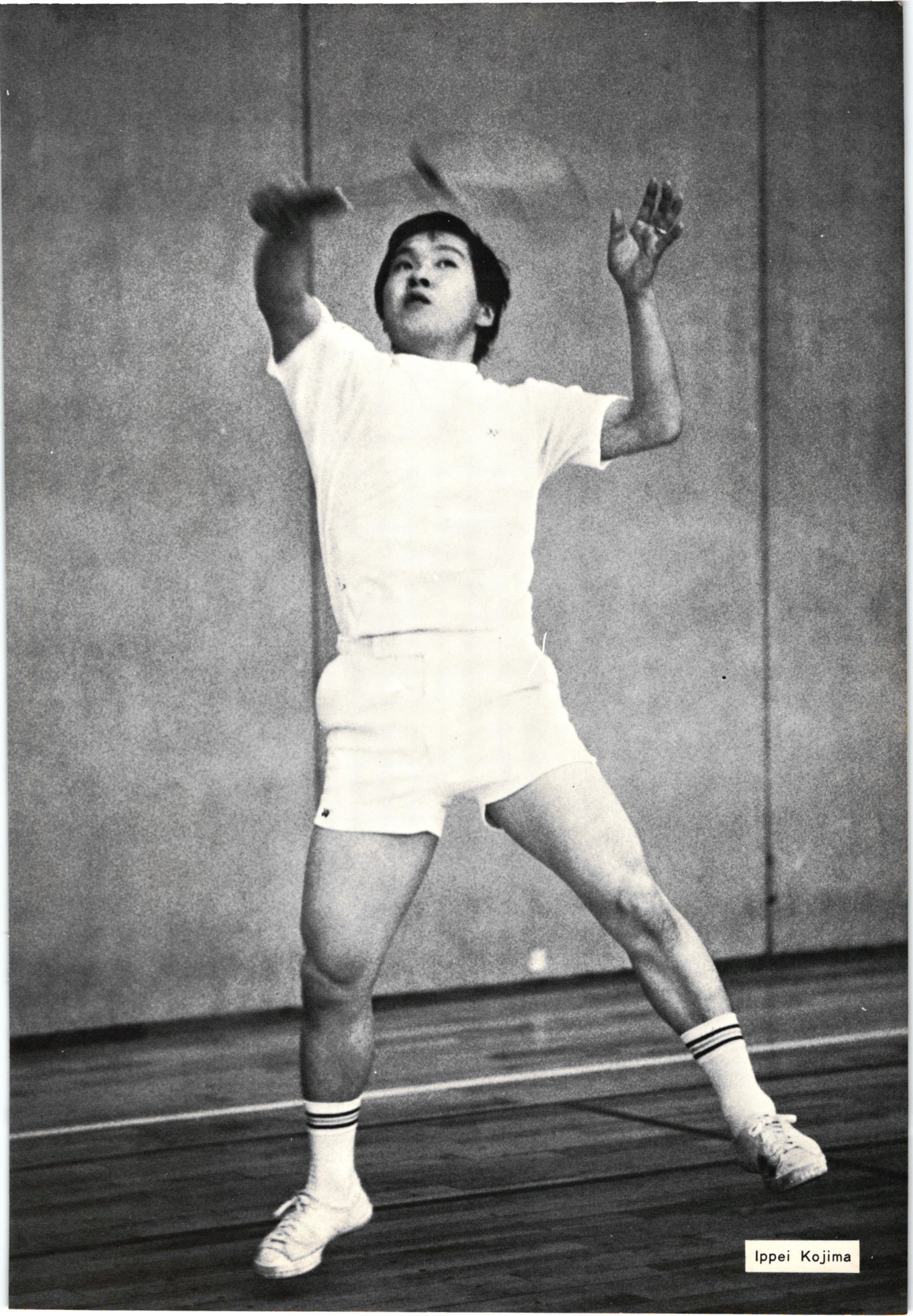
強敵なにするものぞ

―トマス杯戦へ・日本の熱と意気―

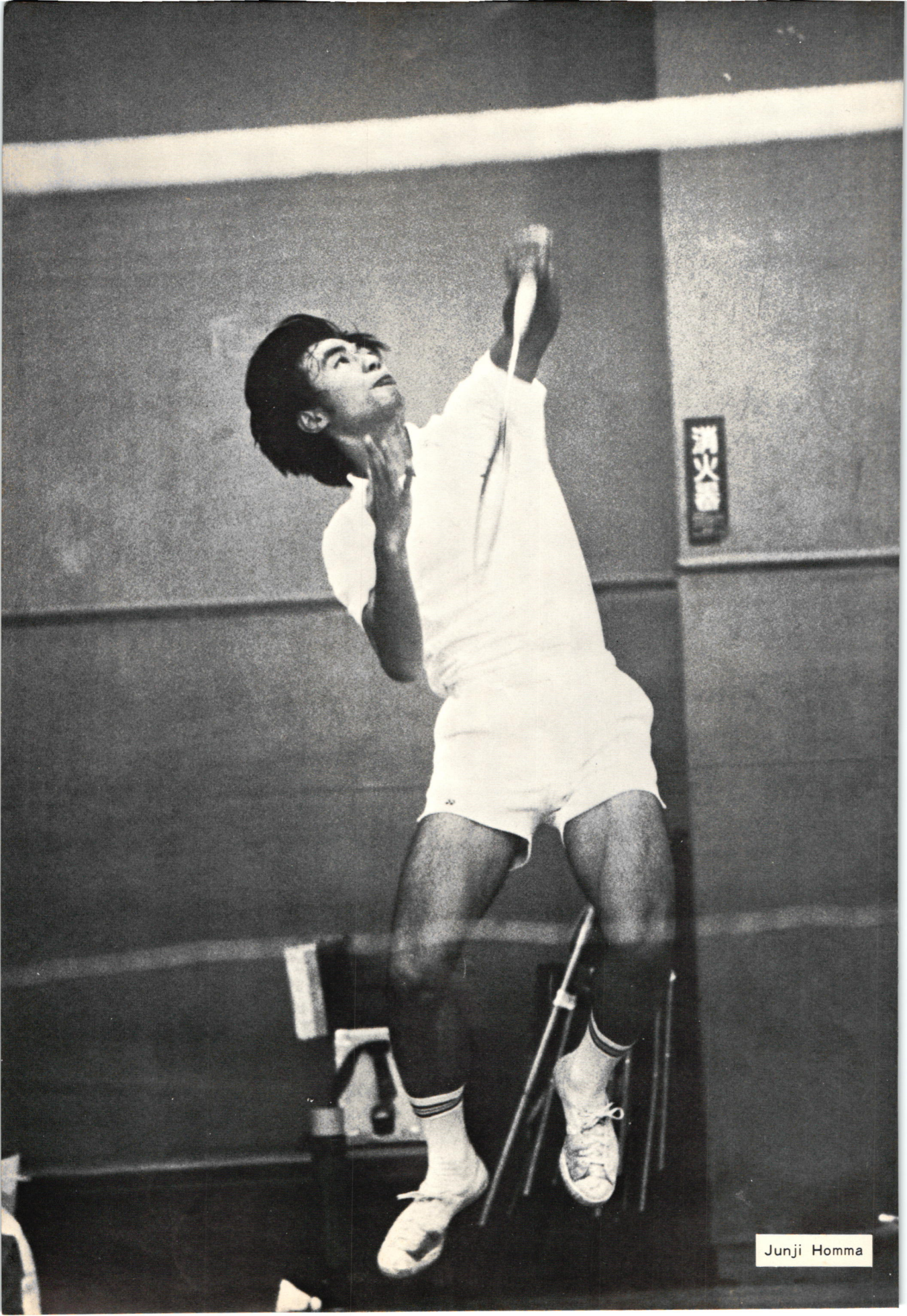


Thomas Cup Squad for Japan

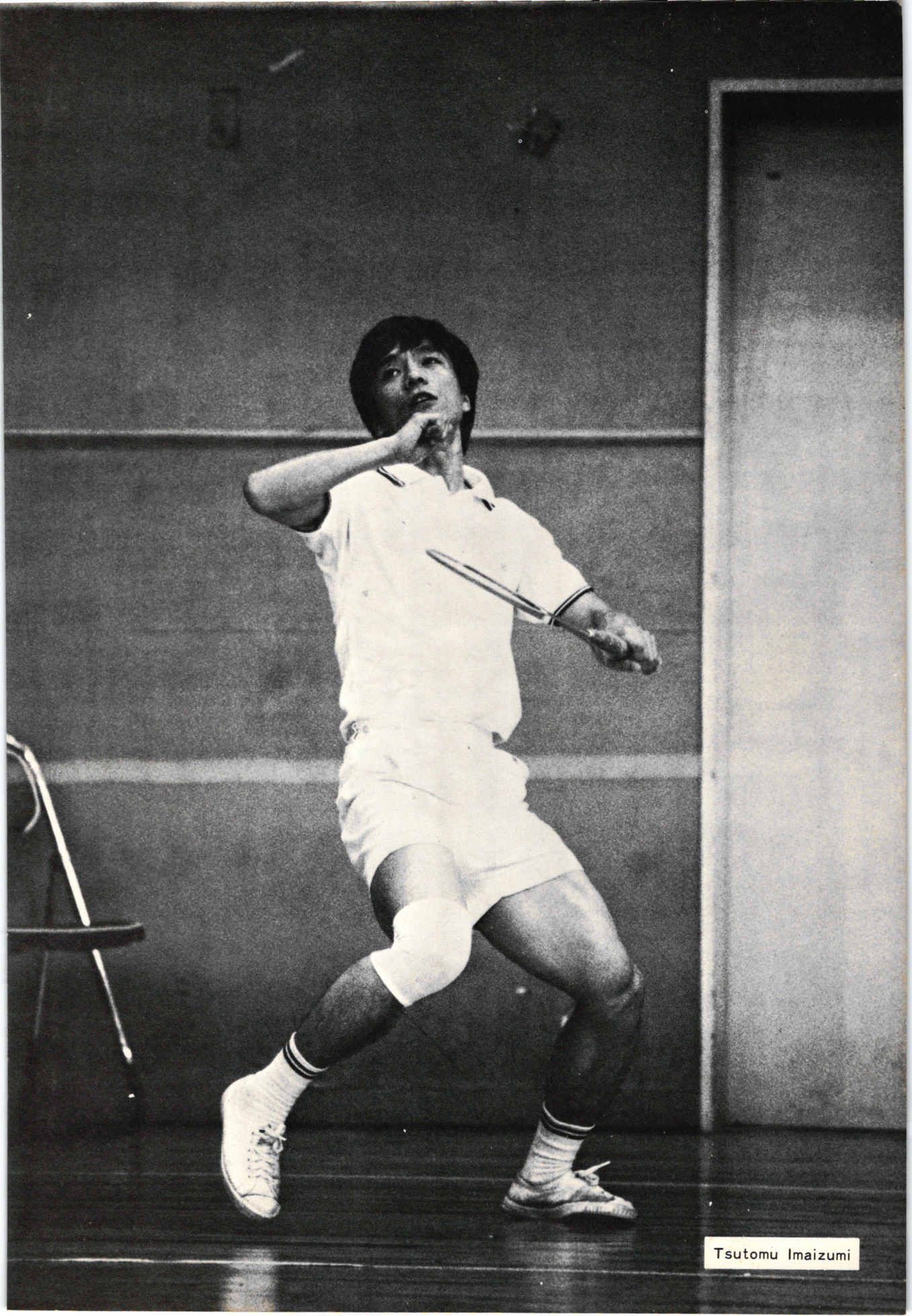
Masao Akiyama



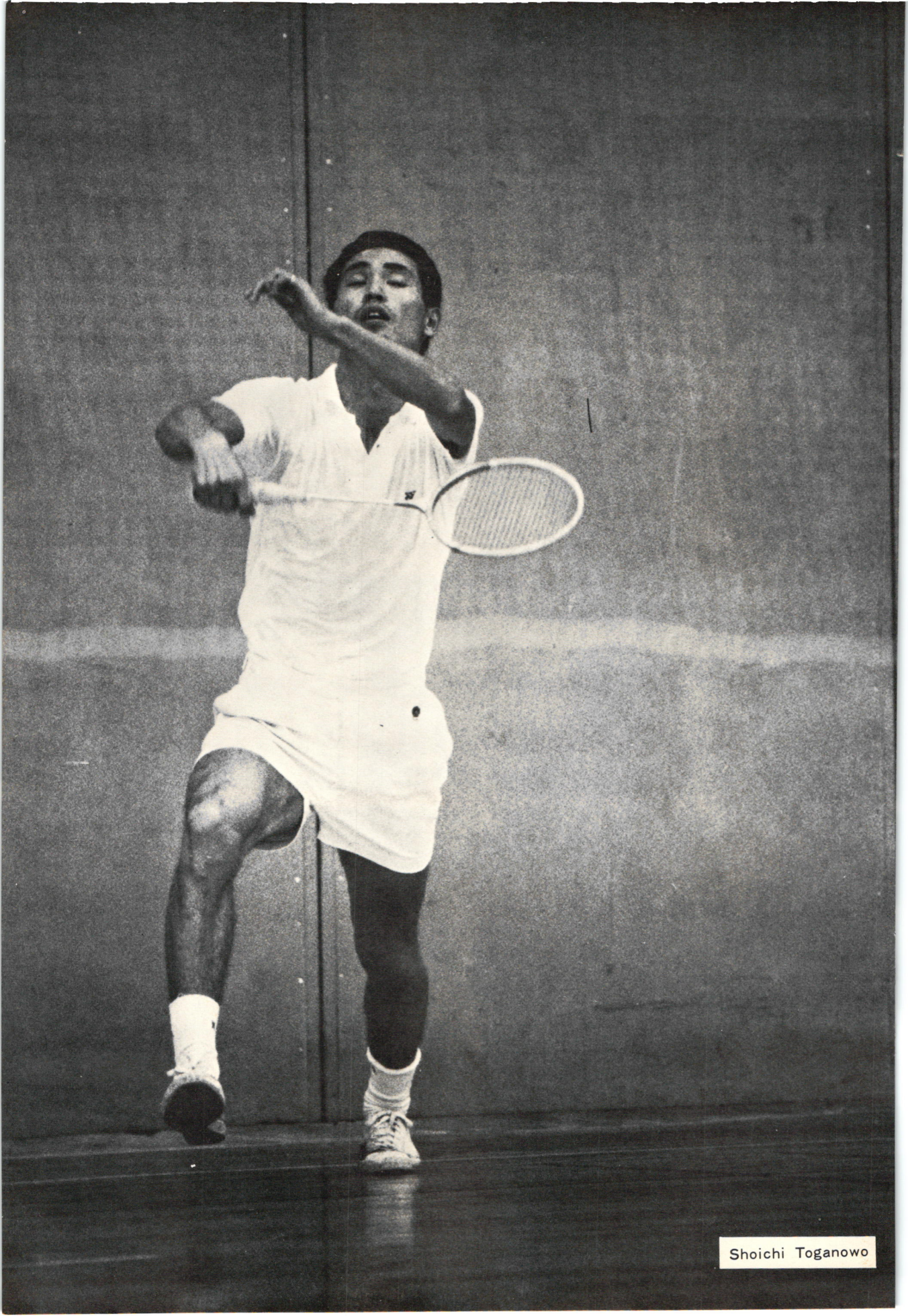
Ippei Kojima



Junji Homma

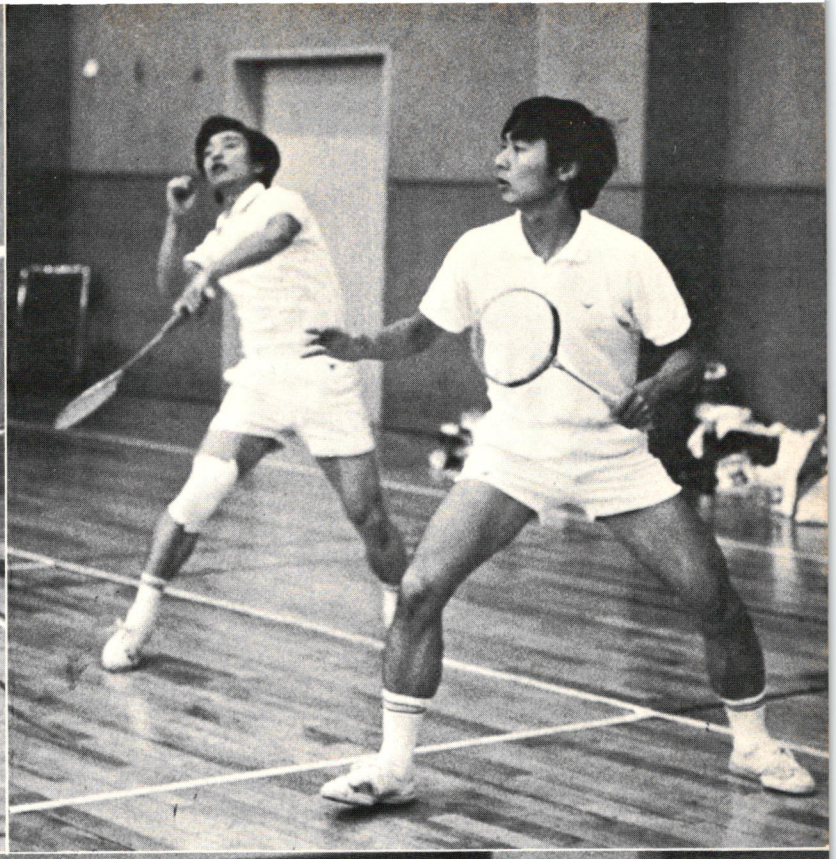


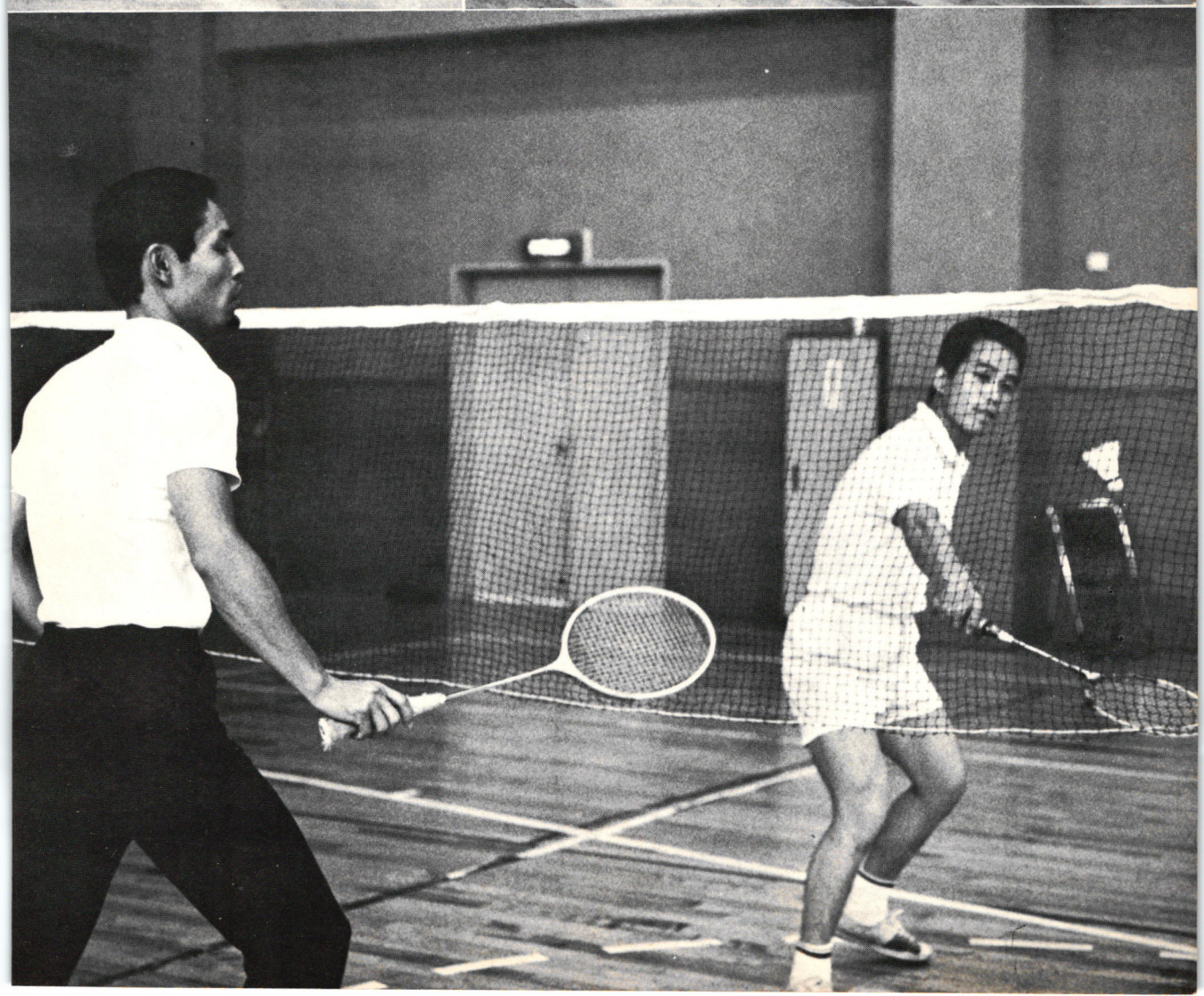
Tsutomu Imaizumi

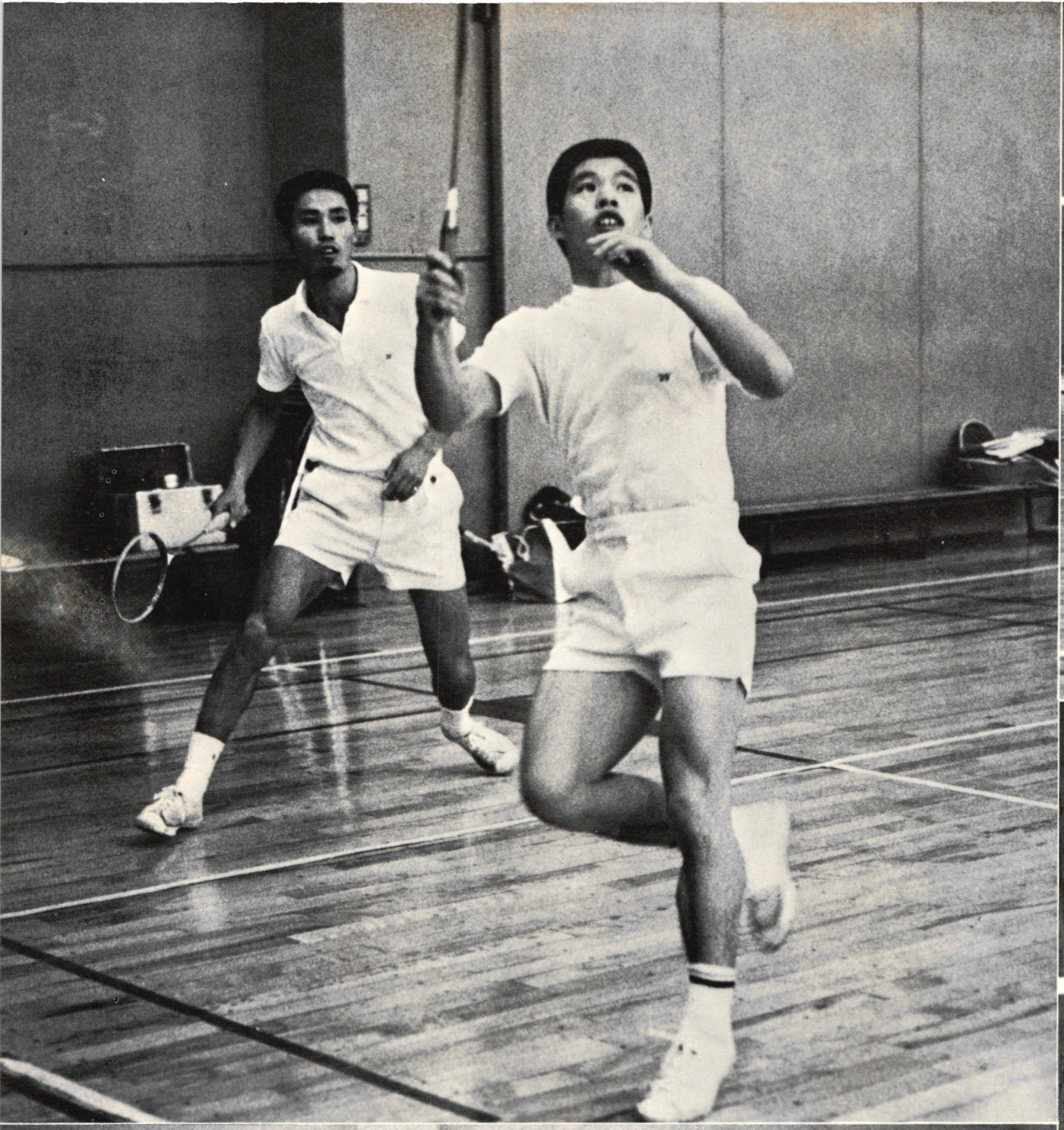


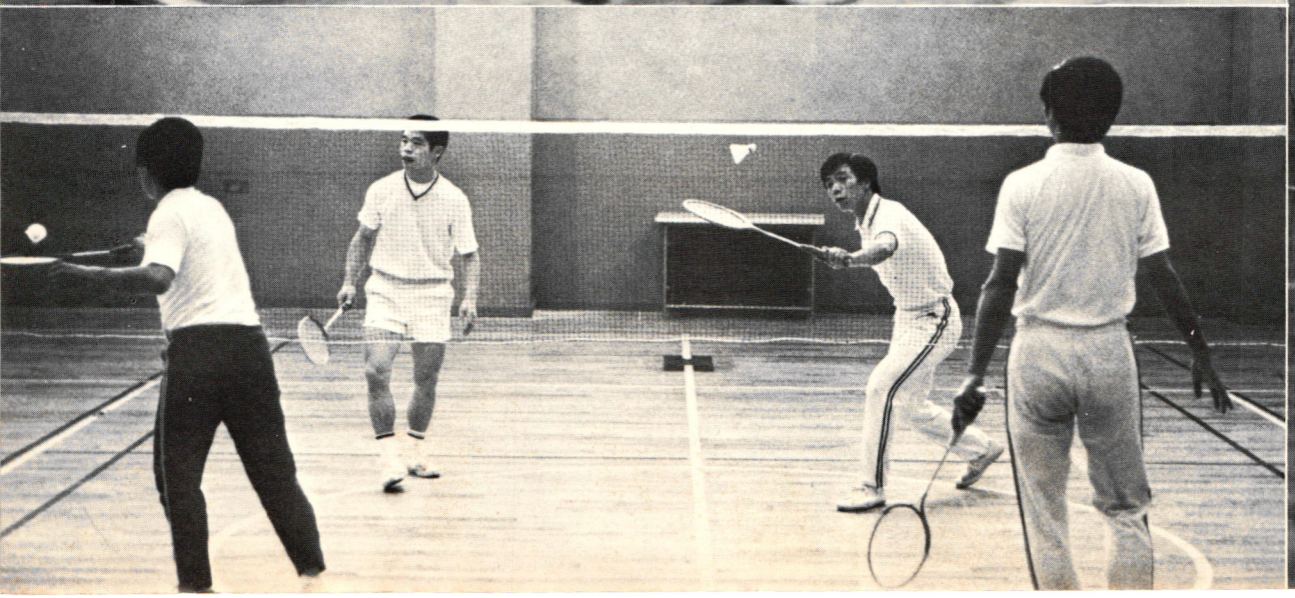
Shoichi Toganowo



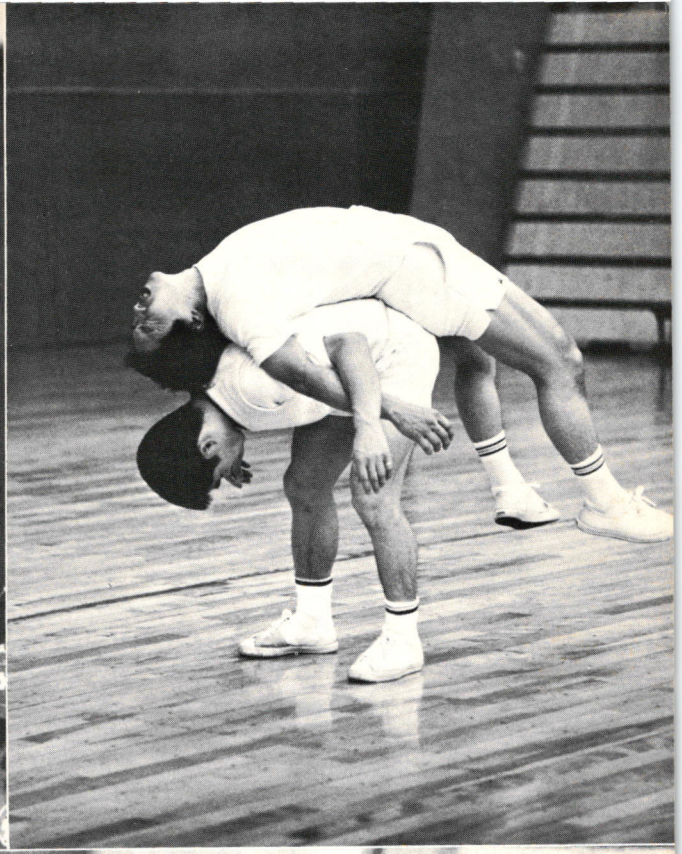


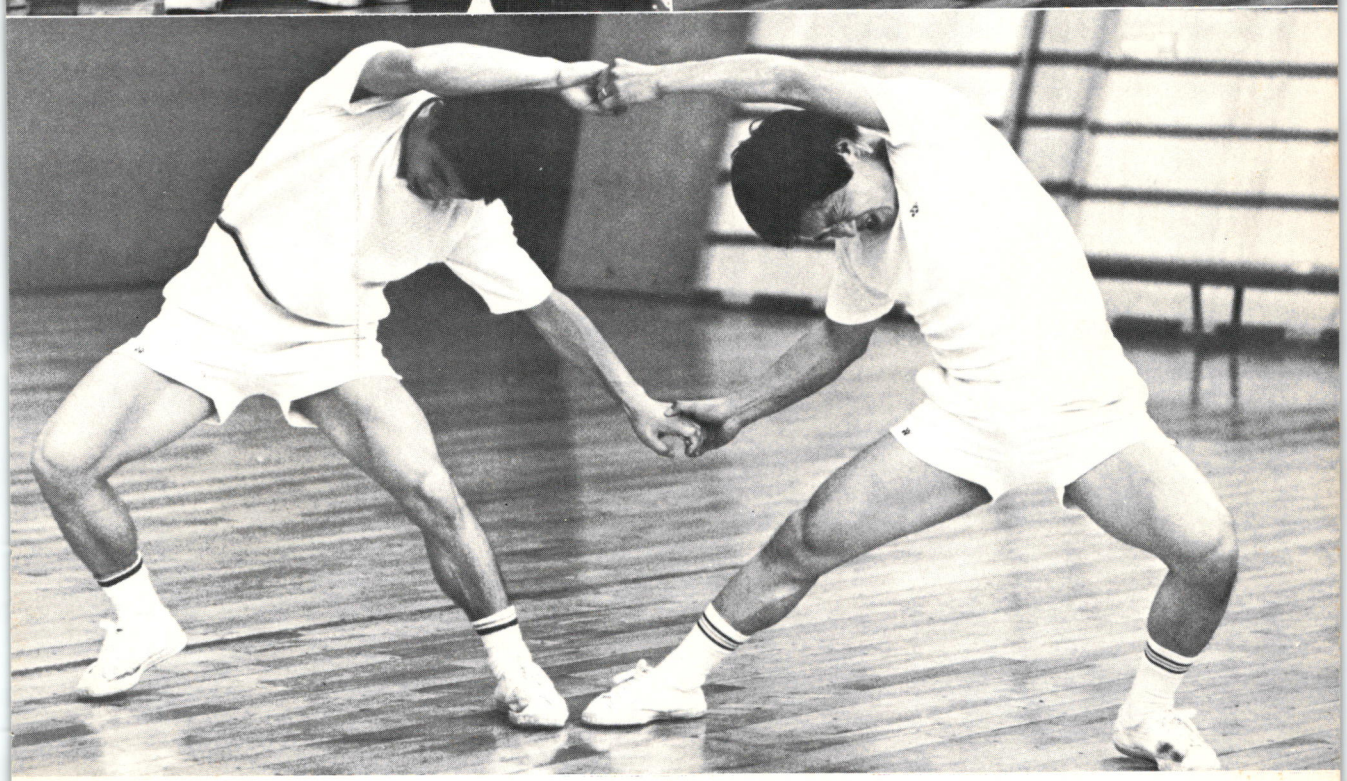








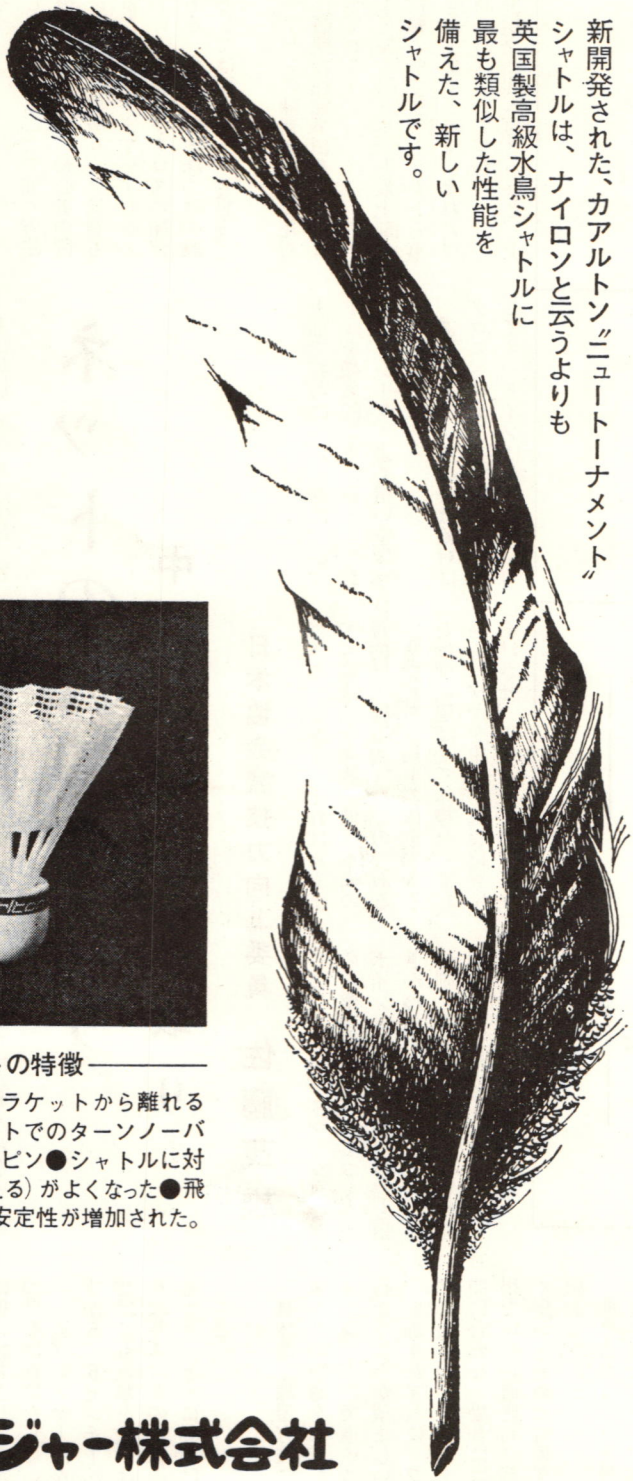


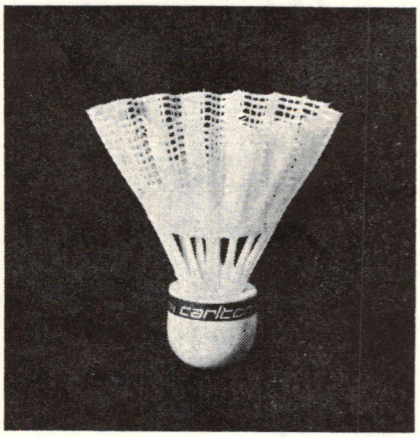


カアルトン ニュートーナメント は水鳥？

ナイロンを感じさせないナイロン。

新開発された、カアルトン〝ニュートーナメント〟シャトルは、ナイロンと云うよりも英国製高級水鳥シャトルに最も類似した性能を備えた、新しいシャトルです。





ニュートーナメントの特徴

●打球音が変った●ラケットから離れる感じが変った●ネットでのターンノーバ（回転）が変った●スピン●シャトルに対する視覚度（よく見える）がよくなった●飛翔のときの一貫した安定性が増加された。

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5-6-4 TEL. 833-3661（代）

ヘアピンをマスターする

ネットの白線を狙う

中途半端は命取り

日本協会競技力向上委員　佐藤茂雄

ハイクリアがマスターできたら、次はドリブン・クリアなりスマッシュなりの練習に進むのが一応のオーソドックスな方法だろう。

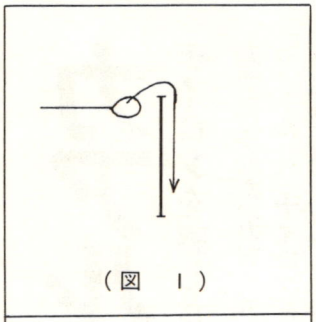
しかし、私はここで別の方法を提案してみたい。初心者の段階においては型破り、と批判もあるだろうが、まずヘアピンのストレートおよびクロスの練習である。少くとも興味づけの段階としては面白かろうと思う。

ヘアピンの練習のさいに絶対的に必要な注意事項を、最初に述べておこう。

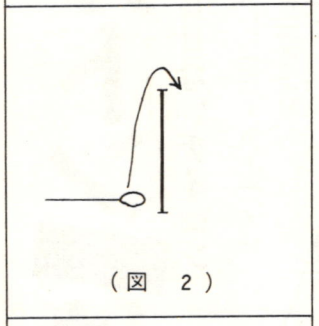
①可能な限りネット最上部の白線の所でシャトルをとる事

②最上部でとれば、それだけ高くあげなくてすむ。

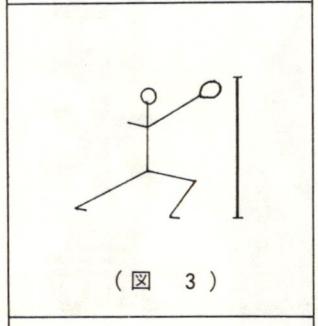
③もっと具体的にいうと、上



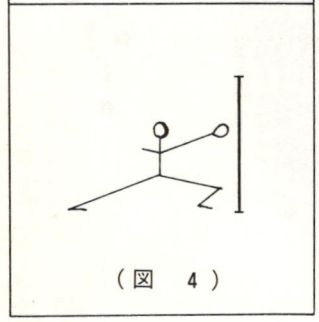
（図　1）



（図　2）



（図　3）



（図　4）

へもあげず、しかも大体ネットに垂直にシャトルを落とすことができ、非常に有利な攻撃の武器となる。（図1）

④しかし、クロスの場合、最

上部で打ちにくいときは、シャトルを徹底的に下に落としておいてレシーブ、よく狙いを定めて打つことである。

⑤ネットインの場合は絶対にクロスヘレシーブすること。概してネットインはあきらめがちであるが、クロス打ちすれば返球できる可能性が非常に高いものである。

× × × ×

ヘアピンは扱い方によってはそれ自体でエースをとることもできる。しかし、それはあくまでも副次的な産物。使う本来の目的は〝経過的〟なものである。

すなわち、相手の体をできるだけ前に運ばせて体勢をくずし、さらにタマを中途半端な位置にあげさせ、こちらがスマッシュなどの強打で一発とるための武器である。

だから、逆に、打点を間違えたり、ストロークの方法を間違えたりすれば、武器になるどころか命取りになりかねない。相手にプッシュ、スマッシュなどの攻撃を浴び、攻めるつもりがポイントを失う最悪の事態も招きかねない。ヘアピンは〝両刃の剣〟であることを常に忘れないようにしたい。

× × × ×

具体的な練習方法に移ろう。

ネットの白線をめざしての、フェンシングの突進のスタイルで行なうことが望ましい。（図3）

白線すれすれに、フェンシングの突きのフォームをつくる。間に合わない場合には、止むを得ないから徹底的に落とし、よく狙いを定めね白線ぎりぎりを狙おう。

間に合わない、と思ったとき、中途半端な高さで、無意識的にラケットを出して打ってしまうのが一番よくない。

このとき気を付けなければならぬことは、上でとるにしろ、下でとるにしろ、上半身は必ず立てておくことである。（図4）

ヘアピンは下（低い位置）で打てば、それだけネットが高くなるわけだから、当然のことながら、フライトが上へあがる率が高くなり（図2）そこを相手に狙い打ちされるのだから気をつけなければならない。

一流プレーヤーになると、わずか5、6センチ上へあがっただけでも攻撃を仕掛けてくる。やはりネットの白線の部分でとるよう、とくに心がけなければならない。

× × × ×

へっぴり腰は危険

上半身は必ず立ててとる

へっぴり腰でやれば、ホームポジションへのリターンが遅くなるばかりでなく、狙ったところへ、思い通りのレシーブをすることが困難になってくる。

そもそもヘアピンというのは、フライトが女性の頭髪を留めるピンに類似しているところから名付けられたものである。従って〝ヘアピン〟の間にネットを挟む感じで打つことが理想的であって、相手からネット前に打たれたタマに急ブレーキをかけるのがコツである。

いわゆる、スピードのあるタマに、わざとブレーキをかけて最大限スピードを殺し、相手のネット前に垂直に入れるものである。もちろん、なかなか垂直には入れにくいものであるが、そのように心がければ、はいるものである。

ブレーキの役割を果たすためには、必ずワンステップ・ストローク（図5）を行なうと同時に、心持ち押し上げるようにするのが最適である。

（図6、7）のようにシャトルのヘッドをこするときに、最大限スピードを殺すことができるわけである。

ワン・ステップの入れ方を間違えたり、ノー・ステップでレシーブしたりすると、シャトルはホップ（ポンと飛び上がる感じの状態）してしまい、攻撃どころか、一瞬にして逆転してしまうので気をつけよう。

ハイクリアと組み合わせる

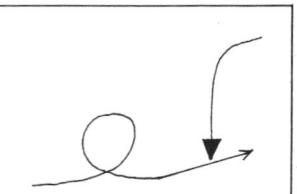
以上、ヘアピンの練習と、前回のハイクリアの二つを組み合わせると、前後に動く練習ができるわけである。相手は自分よりやや上手な選手であって、ハイクリアとドロップのできる選手であればよい。

初心者の段階では、ハイクリアとヘアピンのストレート（真っすぐの方向に返す）とクロスを消化し、同時にフットワークをつけることも、練習方法としては非常に面白いと思う。

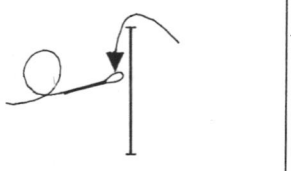
とにかく、初心者に対してはこのような単調なことを反復練習することによって興味づけをさせ、正確な基本のストロークおよびフットワークをマスターさせることが肝要である。

（筆者は東大阪短大監督）

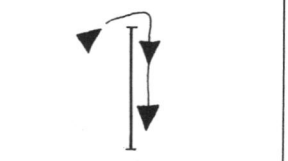
（図　5）



（図　6）



（図　7）

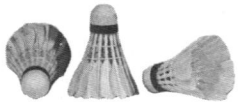


水鳥 検定合格球

ファストゴールド

ファストシルバー





ファスト印シャトルコック　製造発売元　有限会社　ジャワ商会

山形市六日町7 28
電話 02362（22）3994(代) 3280・0545

視力と視線を考えよう

バードから目を離すな

視力が弱ければつかめぬ距離感

日本協会競技力向上委員長　伊藤基記

ある人は、試合には体力がものをいうと強調する。あるものは、バドミントンはなんといってもあの魔術的なテクニックだと主張する。さらに度胸だ、いや作戦こそ勝利のカギだと譲らない。

私はこの現象を、人それぞれの立場において、その場、その対象者を見て法を説いた場合、そういう凹凸が生れたのであって、いずれも真理でありながら、オールマイティではないと判断している。

これらの習得、修練の道程に横たわるカベを一つ一つ克服して頂上をめがけるところに、真の求道者としての喜びがあると考えている。

そのカベの一つとして、今回は表題の「視線の力」をとりあげてみた。

「スポーツは眼でする」と割り切る人もいる。外界を視界にとらえ、それに応じて動くのがスポーツの動作だといえるようだ。

よく空振りをしたり、むかしのフレームショット的打ち損じをする者を何人か調べてみると、視力の不足、近眼や、乱視の者がかなり多かった。女のプレーヤーにこれが案外に多い。問いつめてみると、見にくいのだが、美容上、メガネはどうもということであるらしい。

空中を独特のスピードの急変をともなって、特異のコースをえがいて飛来し、飛去するバードが水中でみるようにかすんでみえるのはがまんするとしても、そのスピードの変化に視線がついてゆけないというところに泣きどころがある。

ハッキリ見えようと多少ボンヤリ見えようと、空間を流れる遠近感、距離感がハッキリしているならば致命的にはならないはずだが、物体がボヤけて見えると同時に、その距離感もボヤけてしまうことになるから困るのである。

この基本になる〝眼と手の協応〟が小さい時から見られることはご承知の通りで、乳児が盛んに物をつかみ、ひっぱり、落し、たたき、投げる、人間の本源的な生活動作を見ればうなづいていただける。

この眼と手の上に道具をプラスし、その道具がラケットになって、〝眼と手に握られたラケットの協応〟ということに発展したものが、テニスであり、バドミントンであるということがいえるだろう。

従って、このラケットと協応すべき眼に故障があるのでは、負傷した馬で競馬にでるようなもので、勝てるはずがない。プレーヤーたるもの、なにはともあれ、視力を調べ、眼鏡をかけて矯正すべきは矯正し、栄養に欠けるところがあれば、これを補うべきである。

ジェット機が猛烈なスピードで飛翔していても、同方向に同じスピードで並行しておれば、お互いに止っているに等しい、鈍行でもすれ違えば、どんな人が乗っているか見わけもつかない。

と同じ道理で、バードに視線がついてゆかねば、ラケットでとらえることはむずかしい。ピストルのタマより、早い初速で打ちこまれた、いわゆる目にもとまらぬスマッシュでも、熟練したプレーヤーの視力にとらえられれば、止っていて、ラケットを待っているバードにひとしいという理屈になる。

だから、私は初心者、熟練者に限らず、バードをよく見よ、バードから眼を離すなとアドバイスする。打ち損じたときのプレーヤーの眼は必ずといってよいほど、バードから離れていることにお気付きねがいたい。

「見えた」ということと「見た」ということの間には距離がある。

私は人のゲームを横からぼんやり見ているプレーヤーには望みをかけない。後方から、しかも立って、コート内のプレーヤーと同じ気持になって、バードのコースや、両コートのプレーヤーの動きを真剣に見ているプレーヤーは頼もしいと思う。

さて、バードを見ていたら、コートやネットは、相手の動きは、見ることができないではないかという疑問を持たれるに違いない。そのことを解くには、直接視と間接視を考えればよい。

直接視でバードをにらんでいても、間接視でコートやネット、相手の姿は視野に入ってくるものである。その極意を、古来「心眼で見る」というむずかしい表現をもって日本人は伝えてきた。

この意味からも、見えるにまかせるのでなく、心して、気力をこめて、バードを眼で追い続けるプレーヤーでなければならない。

頂上近くにいながら、いつもずり落ちる選手の中に、何人かこの「見る気力」に欠けるのを見かける。惜しいことである。

プレーヤーへの手紙・名和選手の巻

"チビ"をカバーした脚の鍛練

自主的な努力が花開く

前日本教職員連盟常任理事　三須徳次

今回は、小柄ながら進境いちじるしい名和選手の登場。皆さんの参考になることが、かなり出てくると思います。

名和和子（東京女子体育大三年、山形県出身）身長144センチ、体重47キロ。山形の中学で二年、高校で三年間の経験があります。バドミントンを始めた動機は「なんとなく面白そうだったから」で、ほかのスポーツは特にはやったことがないそうです。

高校時代は一日四、五時間の練習量があり、技術的には①クリアで相手を後方に押し込み、ネットで勝負②身長をカバーするためにフェイント・モーションの工夫③バック打ちのマスター、を目標にしました。



トレーニングは長距離、ダッシュをクラブで。個人ではナワ跳びや、時間があれば常にランニングで汗を流していたことは口にこそ出していいませんでしたが、身長の不利をトレーニングによってカバーしていたことがうかがい知れます。

高校生などが強い選手に「どんな練習、トレーニングをしているか」質問すると、ほとんどの場合「試合前は軽くやっている」という答えが返ってきます。ここで問題となるのは、この〝軽いトレーニング〟を簡単に考えてしまうことです。

名和選手をはじめ、バドミントン界に登場した有名プレーヤーは、それぞれ血もにじむようなトレーニングや練習のすえに栄光への道を歩んでいます。だれしも初歩のころは、練習やトレーニングが苦痛だったはずですが、努力の積み重ねによって苦痛に感じない体力ができあがっておりますが、前に述べました〝軽い〟が全部とは限っておりません。必ずや他人に計り知れないほど、つらい練習を折り込んで行なっております。

強くなればなっただけ、追われる立場で練習にトレーニングに励まなければ、一定の段階で足踏みをしてしまいます。皆さんも自分に適した方法、つまり年令・経験に応じた練習内容や、トレーニングの増減が大切です。監督やコーチに相談して、自分の体力に合わせた計画で実施して下さい。

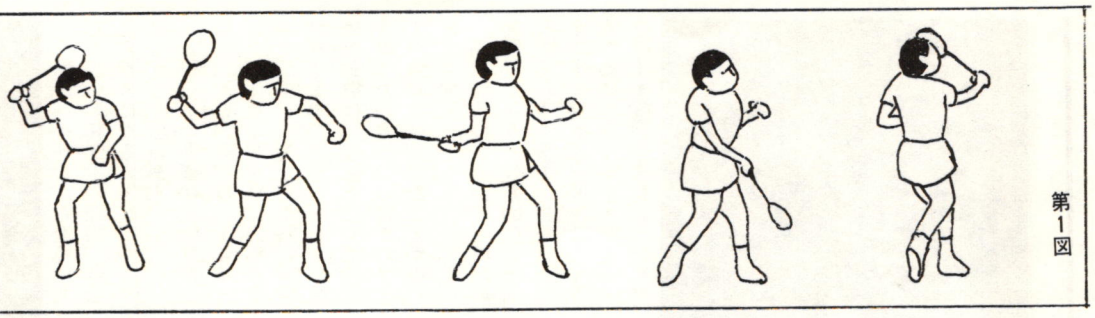
名和選手は高校時代、毎日練習ができ恵まれていたのですが、クラブのトレーニング以外に走り込んだのは、並大抵の努力ではできないことですし、私の想像ですが、走りまくったことは〝スピードの持続〟を考えてのことだと思います。

スピードの持続――名和選手の場合は、相手のペースについてゆく持続ですが、今後は相手のスピードをうわまわり、相手がついてくるのが精一杯、と言うスピードの持続を身上として活躍して欲しいです。そうすれば、ほかの選手にみられない〝出足〟の早さが生かされます。

「高校時代にはシャトルを追いながらよくころび、手から離れたラケットをあわてて取ると き、フレームを持って打ったことがしばしばあり、もう少しコンパスがあればなんとか転倒せずに捕れたのに、と思うことがありました。」

シャトルに追い付くために、いかにスタートを早くするか、高校時代に悩んだことでしょう。現在は出足について問題はありませんから、素早い出足をゲームでのスピード持続に結びつければ、サイドに振られても心配がなくなります。

行動中に余裕があれば、考えることが可能ですが、打合っているときに体勢が崩れたとか、シャトルがやっと捕れそうなとき、あるいは追い付くのがやっとのときなどは、考える暇がありません。なんとしても瞬間的な出足が、次の動作に関連しますので、是非とも名和選手の出足に注目して下さい。（続）



第1図

下手打ちをマスターしよう

ヒザから下方に飛んでくるシャトルを処理する打法をアンダーハンド・ストロークといいます。ですから、打点が腰より下でなければならないロングハイサービスのさいのストロークも広い意味ではアンダーハンドといえるでしょう。

もし、あなたが試合中にどうしてもアンダーハンドで打ち返さなくてはならないとき、それはあなたが、きわめて不利な状態に追い込まれていることを意味します。

前号でも説明したようにザ・ハイヤー、ザ・ベター（高ければ高いほどよい）のセオリーからしても、低い位置でとらえることがいかにマイナスであるかが、わかると思います。

では、ひとたび、このような態勢に追い込まれてしまったら抜け出すすべはないのか。いやアンダーハンドから打ち出せる約三種類の返球をうまく使い分け、組み合わせることによって窮地を脱し、十分に攻撃へと切り返すことも可能です。

しかし、その三種類の返球が即攻撃に通用するものではなくあくまで、窮地からの脱出でありますから、念のため。

では三種類の返球とは何か。一つは滞空時間をかせぎ、態勢の立て直しをはかるためのハイクリア、一つは態勢の逆転をねらえては打ち返せませんから、必ず側面でとらえ、右足（右利きの場合）に重心をかけ、上体を傾斜させることが先決です。

この状態からシャトルを十分にひきつけ、脇腹にひきつけるようにしたヒジを中心に、ラケットを振りおろしはじめます。このとき、手首は十分にうしろへ返します。スナップの返しはシャトルをヒットした瞬間に与える力の強弱に大きく影響します。よく気をつけて下さい。

さきほどとは逆に、手首を深くくい込ませ（スナップ）そのまま振りあげてフォロースルーにはいるわけです。

しかし、前記三通りの返球の種類によって、ラケットの動き脱力のしかたにも当然、変化があります。

ハイクリアやドライブぎみのクリアのときは、腕を大きく振ってフォロースルーにはいってもよいのですが、ドロップではシャトルをヒットする瞬間、その動きを停止させ、意識的に脱力させます。これでシャトルが死にダマとなってスッとネットぎわに落ち、効果を発揮するのです。

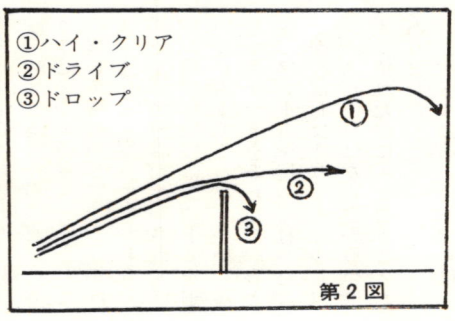
手首をよくきかせる

スイングの基本はサイドアームと同じ

この動作に平行して重心を右足から左足へ移行させはじめる。つまり腰のひねりが加わります。そして、ヒジを中心としてラケットが振り子のように振り出されます。

シャトルをとらえる位置ですが、初心者は、よく必要以上にひきつけすぎ、ヒジが曲がったまま、押し出すように打ったり余裕がなくて、からだの正面でとらえようとミスを犯しがちです。気をつけましょう。

そして、ヒットした瞬間に、からだの正面でシャトルをとらえるようにします。



第2図

初歩からの体力づくり

百万人のトレーニング入門　第2回

皆さんは鉄棒のけんすい、あるいは逆立ち、腕立て伏せ、などがどのくらいできますか。

バドミントンは重量挙げとは明らかにちがいます。スピード、瞬発力、柔軟性、巧緻性といった特殊な要素が必要です。しかし、だからといって、いわゆるパワーが必要でないとはいえません。

野球では、ピッチャーの球質に軽いタマと重いタマという言葉があります。軽いタマというのは、見た目のスピードがあっても、当たれば一発ホームランのお返しを受けるようなタマ、重いタマは、反対になかなか飛びにくいタマです。

バドミントンのストロークには、この二つの要素が必要です。スナップがきいて速いタマ、ずしりと相手のラケットをハネとばすようなタマ。こうしたストロークが打てるようになるには、腕や手首だけでなく、全身のすぐれた筋力が必要です。

そればかりでなく、〈アピンだのドロップだのように、スピードを殺したストロークにも、殺すためのパワーが必要です。つまりどういうことをやるにしても、バドミントンが〝運動〟である限りは、一定水準の筋力がなければなりません。

そこで話をスタートに戻します。全身を二本の腕で支えられないような、心細い体力では、バドミントン・プレーヤーとして一人前になれない、というのは、この道の諸先生方の研究による〝定説〟です。

けんすい、逆立ち、腕立て伏せは、このための例として引用したわけで、さいわい我が国のトッププレーヤーたちは、みなけんすいの名手だそうです。いま述べた理論は、実際によっても証明されているわけです。

全身のトレーニングについて

体力のバロメーター

〈けんすい、逆立ち、腕立て〉

けんすい、逆立ち、腕立て伏せは、主として腕の力によっていますが、腹筋、背筋、腰の力など、実際には全身が関与しています。ですから、この単純な運動は、一人で、いつでもできる全身トレーニングとして、とても有益なものです。

鉄棒を利用してできるのは、けんすいだけでありません。足掛けあがり、けあがり、ぶら下って振り出しての着地、要するに簡単な鉄棒の運動はすべて役立つわけです。

鉄棒に限りません。折れる心配がなければ木の枝でやれますね。体操で使う平行棒、マナーがよくないと叱られるでしょうが、子供たちがふざけてやっているように、電車のつり皮に、体操のつり輪のようにぶら下がったり、けんすいしたり、つり皮を支えているバーも利用できます。

筆者は小さいころ、家のカモイを応用しました。そのほか、体育館にあるロクボク（肋木）棒のぼり、綱のぼりもいいものです。逆立ちや腕立て伏せにいたっては、もっと簡単にやれます。

金メダルに結びついた男子バレーのマット運動

足腰や腹筋を鍛えるのにいいのは、マット運動です。次のページに掲げたのは全日本男子バレーボール・チームのトレーニング風景。一体、なにをやっているのかわかりますか。

長いヒモのさきにボールを結びつけます。それを一人がふりまわします。マットの上に選手が立っていて、ヒモつきボールが来ると、ジャンプして、それをよけます。

ボールはフルスピードでまわっていますから、跳んでマットに着地した瞬間には、もうひとまわりして、また自分の足元に来てしまいます。パッパッパッパッと敏速に行動しなければなりません。

しかし、やってみるとわかりますが、マットの上でジャンプするのは、マットにバネがないために、大変むずかしいものです。

バレーの選手たちは、段階を追って、ただ跳ぶだけではなく、次のボールが来るまでの間に、マットに腹ばいで落ち、すぐとび上がる。あるいは前転、後転、側転などをやってとび上がるなど、複雑な運動をこなすことまで成功しました。

このようなトレーニングがフライング・レシーブや、打点の

高いスパイク、ブロックに、そしてミュンヘン五輪での金メダルに結びついたのです。

バドミントンとバレーは競技の性質がちがいますが、筋力を強化しなければならないのは同じです。このトレーニングは足のバネと同時に、腰、腹を鍛えしかも、いわゆる瞬発力、反射神経の養成にも役立っています。マットを使え、二人以上でいっしょにトレーニングできる場合



だったら、おすすめしたいものの一つです。

同じようなものにトランポリンがあります。ハミ出して下に転落したら大変ですが、数人で協力してやれば、マット運動に劣らぬ効果があるでしょう。

重要な柔軟性の養成

ペアでやってみよう

これらを組み合わせたり、笛の合図で伏臥→側臥→とび起きなどの連続ワザにすることも変化があって面白いものです。こ



タタミの上や床の上で一人でもできるものとしては、うつぶせ状態からの、いわゆる伏臥上体おこし、側臥上体おこし、逆に両手をうしろにのばして足首を握り、足を引っぱる伏臥足あげ、などが知られていますね。

のほか、逆立ちした相手を背中合わせにかついで走ること、ナワとび、馬とび、馬とびして、その馬の下を逆にくぐってもどり、またとぶ運動もあります。

これまで述べたのは主として筋の強化のことですが、筋力というのは〝ちぢむ力と伸びる力〟つまり緊張と弛緩の相互作用のことです。したがって、ちぢむ力だけが強くなっても、かえってカタワなからだが出来上ることになります。

バドミントンでは、敏しょう性が特に必要ですが、敏しょう性というのは、筋の伸びちぢみのスピードによって左右されます。どうしても、筋が柔軟でな

ければなりません。

そこで、柔軟性を養うための簡単な運動をいくつか紹介してみましょう。いずれも、からだだけあればできるものです。

はさみとび――ジャンプして開脚し、そのままおりる。おりてヒザを深く曲げ、ピンとのばして立つ。

これと似たものに、準備体操でよくやる、軽くとんで足を左右、前後に開いて閉じて、を繰り返す方法もあります。次は二人でペアになってやった方が効果のあがるものです。

倒立背負い――さきほど説明したと同じように、逆立ちした人を背中にかつぎ、ひっぱり上げては下ろすことの繰り返しで。

シーソー――両足を前にのばして腰を下ろし、背中合わせに組む。一人が背中をそらして相手の方に倒す。倒された相手は自分の頭が床につくまで深く前に上半身を曲げる。

体回旋――前に足を開いて伸ばし、腰を下ろし、足の裏をつけ合って向い合う。一方が相手の手首を持ち、上半身を円をかくようにまわしてやる。

以上は、ほんの一例です。考えればいくらでもやり方があります。工夫して下さい。

いうまでもないことですが、こうした運動の多くは、基本的な形が、たいていは準備運動の中にふくまれているものです。準備運動をバカにせず、心をこめてやりたいものです。

投げたり振ったり握ったり
手首の強化法あれこれ



手首や腕の強化も忘れられません。手首を強くすることは、スナップとフリックをきかせるのに大切です。

皆さんだれでも知っていることに、ビン振り（砂をつめたビールビンを、空中で8の字をかくように振りまわす）がありますこれは遠心力を応用したものですが、手首の強化法はこれだけとは限りません。

肩の強化をふくめ、たとえば野球のボール投げ（キャッチ・ボール）女の人はこうした動作がとくに下手なので、バスケット、バレー、ハンドボールなどの大きなタマを遠投することは大いに役に立ちます。ボールを投げることは、いずれにしろ、手首が強くないとできないからです。

ただし、慣れないことを急激にやると、手首ではなく、さきに肩をこわします。無理せずに

いろんなスポーツを楽しもう
トレーニングの視野を広く

手首を強くすることは握力の強化と関係があります。振ったり投げたりすることだけでなく、握ることも強化につながるのです。

野球の硬球や軟球を軽く握り、手首を曲げのばしする運動はどんな野球選手でもやっています。ゴムまりを強く握りしめたりすることも、もちろんいいし、ただの棒きれ、電車のつり皮、コーモリ傘の柄なんでもけっこうでしょう。

言い忘れるところでしたが、積み重ねましょう。川原があれば、小さなおにぎりくらいの石を投げることでも代用できますし、雪のふる地方でなら、雪玉投げもいいでしょう。

逆に、卓球のタマのように全く軽いものを全力で投げるのも肩にプラスします。逆立ちや腕立て伏せで、手のひらをぺたんとつけず、五本の指を立ててやることも効果的です。

このほか、野球のバット振りテニスのラケット振りなど、バドミントン・ラケットより重いものを持って振りまわすことやバドミントン・ラケットなら2本を重ねて持つことも同じような意味があります。

エキスパンダーは手首、腕、肩、足腰、腹あらゆる部分のトレーニングに役立つし、軽めの鉄アレイも利用できます。

最後に、いろんなスポーツへの参加をおすすめします。特に危険なものは別ですが、バドミントンとそのためのトレーニングだけにあけくれず、幅広く楽しむことです。とくに庭球、野球（ソフト）、バスケット、サッカー、ハンドボールなどは、バドミントンに益する部分が多いはずです。

ベルトが短くなったぞ

北海道新冠町

日高管内新冠町の紳士たちの間で、いまズボンのベルトを短くしたか長くしたかが、ちょっとした話題となっている。

〝0・1トン〟といわれ、90キロ余りのからだを持て余していた町長の小野木恒さん(四七)は、短かくした組。いま体重は81キロに減り、かつて105センチあったウエストは95センチに。つい先日ベルトを8センチ切ったばかり。「これもバドミントンのおかげだよ」と得意そうだ。

ついで勢いよく、こんなことばを吐く——どうも日本人はスポーツを見るものだと思っている。そうじゃない。生活の中で楽しむものなんだ。なにも若いものに独占される必要はない。だれにでも年齢に合ったスポーツがあるんだから、それをさがしてやってみるべきだ…。

ベルトを切った自信は大きい。

ガラーズとハラダース

町長のベルトを短かくしたのは「新冠バドミントン同好会」通称〝ガラーズとハラダース〟だ。中年になって、ふとって腹が出たのがハラダース。逆にいつまでたってもロッ骨まる出し貧相に見えてこまるというのがガラーズ。

軽種馬の牧場主、土建業者、商店主、農協職員…いずれも町内では顔の売れた四十代の紳士たちが30人。夕方になると町スポーツセンターに顔を出し、バドミントンに汗を流す。時々催す〝コンペ〟ではガラーズとハラダースがペアを組む。

百聞は一見にしかず

「バドミントン？　ああ、子供が道路でやっている羽根つきか」——この紳士たちの〝常識〟を破ったのが、四十四年、北大バドミントン部の合宿。

「なにも大学生がハネつきなどを」と高見の見物に出かけたが、あの激しい動きはどうもようすがちがう。ハネつきも高度なスポーツとなると大変なものだ。

そこへ北大生が「どうです、やってみませんか」と呼びかけた。太い腕で細いラケットを握ってみる。ドタドタと床を抜くような動きだが、とたんに吹き出した玉のような汗。でも、さわやかだった。

世代の断絶？も埋まる

「これを続けたら腹がペチャンコになるかな」とハラダース「待てよ、オレたちにも肉がつくかな」とガラーズ。紳士たちは、ころっとまいって、同好会が生まれた。

エンのないものと思っていたカッコいいトレーニング・ウェアを着ると、いっそう浮き浮きする。

「忙しいといっても、一日中追いまくられるわけじゃない。私はね、夜の宴会なんかあっても、ちょっとここで汗を流し、それから宴席へ行くんだ」とは農協の経理マン(三七)

同好会の事務局長、亀浦和郎さん(四二)の「われわれの世代は、いまの子供たちがやっているような形でスポーツを楽しんだことがない。ようやく彼等へのセン望をふっきれましたよ」と、世代の断絶を埋めることができた、喜びのことばが印象的だ。

(北海道新聞)

毎週この日が待ち遠しい

山口県徳山市

「結婚してもこんなことが楽しめるなんて、毎週この日が待ち遠しくてたまりません」徳山市で六月末まで約二ヵ月、毎週火曜日に開かれた市民バドミントン教室が主婦らの間で大好評参加者は七十七人にものぼっている。

同バドミントン教室は市民の体力づくり運動として、市が行なっているスポーツ教室の一つだがテニス、卓球、バレーなどと比較にならぬほどの人気。

市内各地区から集まったママさんは、体育館のなかでハネを追って、ラケットを右に左にと振りまわし汗だく。館内は熱気でむんむんでした。

バレー押えた人気

参加者のほとんどが家庭の主婦で、三分の一は子ども連れ。二十代のママさんは二人だけ、大半が三十歳代で、四十歳代の主婦も二人含まれている。

「まず第一に足、腰をしっかりと強く」「反射神経を身につけましょう」——などという指導員のことばに必死に耳を傾ける。講義が終われば実地練習。

参加者の大半は、実は講義よりもラケットを振って、からだを動かすのがねらいのようで、高尾団地から来たという三人連れのグループも。

「別にうまくなりたくはないんです。ただ、からだを動かしたくて…なにしろバドミントンなんて、中学時代にちょっと遊んだぐらい。でも、とっても楽しいわ」といったぐあい。

受けた〝気やすさ〟

日ごろから、運動をする機会が少ないだけに、額に汗をいっぱい流して猛ハッスル。疲れれば隅にぺしゃんと座って休憩。いっときして、またラケットを振る。

まったく気楽なものだが、この気易さが受けて、参加者はふえる一方。市体育課でも「これほどスポーツ教室で人気があったのは初めてだろう。バドミントンなら、これまでやったことのない人でも簡単にできますからね」と語っている。

遠く久米地区の方から来ている主婦もいるというから、この人気、まずは本物のようだ。

(山口新聞)

お断わり——本欄はユニバーサル通信社、体協時報の記事等をアレンジしたものです。

北から南から



バドのお化けが登場

愛知県名古屋市

素手で打つ〝お化けバドミントン〟が登場した。名付けてピンポンパン。もともとはインドアンの遊びだったとかで、日本に二年ほど前、輸入された。

真っ先に飛びついたのが名古屋市教育委員会。「目下、全国一の普及率。昨年夏の市民スポーツ祭で披露してから一個五百円のハネが千五百個売れました。ハイ」

ハネの形はバドミントンに似て、柔かいスポンジ製の直径約8センチのタマネギ状の台に、青や赤や緑に染めた長さ約20センチの水鳥のハネを二、四本、差し込んであるもの。

名古屋市では今春すでに第一回大会を開き、62チーム、三百七十二人もの参加者（ただし男子三十歳以上、女子二十五歳以上に制限）があった。

なにしろ〝新顔〟だから全国共通のルールはまだない。市教委がつくったルールによると①一チーム四人②コートはタテ10メートル、ヨコ5メートル③ネットの高さはバドミントンに同じ④二回または三回のパスで相手コートに返す⑤15点先取で1セット・マッチ。

バドミントンはバレーとテニスの〝合の子〟といわれるが、このピンポンパンはバレーとバドミントンの合の子だ。

「服装や用具にカネもかからず、せまい場所で老若男女だれでもできるし、見た目より全身運動になるから、運動不足の人にはもってこいじゃないかしら

シンガポールとバドミントン

シンガポールの各地区コミュニティ・センター（公民館）で人気のあるスポーツは、ゲーム、バスケット、陸上、バレー、バドミントン、卓球、セパックタクロー（どんなものか不明）等である。クラブと会員数の順序に並べると①バスケット114チーム、1458人②卓球124チーム、1409人③バドミントン59チーム、720人がベスト3。

国立の国家青少年指導者訓練センターにおける中級カリキュラムには「スポーツと戸外ゲーム」の代表として卓球・バドミントンが30時間（実技28時間）も組み込まれている。バドミントンの地位が、きわめて高いことがこれでわかる。

（「レクリエーション」72年7月号から）

一流選手はお断わりで

宮城県仙台市

さあスポーツの秋。初心者にもバドミントンの楽しさを、と十日（九月）仙台市のレジャーセンターで「仙台市民バドミントンまつり」が催された。

この会は毎年春と秋の二回、同市バドミントン協会が市民の体力づくりとバドミントン人口を増加をめざして開催しているもの。

〝一流選手〟はお断わりしてお祭りらしくペアで①初心者②兄弟③ママさん④合わせて百歳以上⑤親子⑥混合ダブルスなど六ブロック。中学生から頭のハゲかかったお父さんまで、約七十組が参加した。

ほとんどが正式な試合は初めてとあって珍プレーが続出したが、それでもハネを追う目は真剣そのもの。「昔鳴らしたハネつきのようにはいかんワイ」と二人合わせて百歳以上組は、真ん中に張られたネットを、腰をさすりながら、うらめしそうになながめていた。

会場にはママやパパを声援する家族も大ぜい。スマッシュ？が決まるたびに、さかんな拍手がとび、なごやかなムードいっぱいの一日だった。

（河北新報、サンケイ新聞）

ラケット握る手に汗

北上でママさんバドミントン教室

岩手県北上市教委は家庭婦人のスポーツを奨励しようと、このほど「ママさんバドミントン教室」を開設した。数十人のママさんが特訓を受けている。

この教室は毎週火曜日に開いており、受講者は初めてラケットを振る人ばかり。それだけに最初はサーブも〝ハネつき〟のように高くあげてからラケットで打つという珍プレーも見られ会場の修練館は大にぎわい。

しかし、市バドミントン協会員が厳しく特訓を続けており、間もなく、むずかしいドロップも打てるようになるという。

市教委では、特訓ママさんの中から指導者が出て、市内にママさんバドミントンが普及するだろう、と楽しみにしている。

（岩手日報）

北から南から

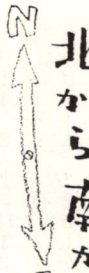
町教委が用具を配布

疲れもふっとぶと、農家の主婦たち

香川県綾歌郡国分寺町の人たちは、町教委から配られた用具を使い、スポーツの町づくりめざして練習に励んでいる。

同町では現在、町内十二地区に卓球、バレーボール、バドミントンの三スポーツ用具を配布しており、三年がかりで全地区への配布を終わる予定。この時

北から南から



バドが重点種目

岩手で〝県民総参加〟のスポーツ教室

一昨年の岩手国体を機に「県民総参加」をキャッチ・フレーズにしたスポーツ教室が、岩手県下で大きな盛り上がりを見せている。

初年度の昨年は盛岡など15市町村で開設され、主婦など約千人が参加したが、ことしはスポーツを生活にとけ込ませ、県民すべてが参加するようにとのねらいから、県は一市町村当たり十万円の補助金を出し、県下62市町村で二万人を対象にするという大がかりな運動。

盛岡市の場合を例にとると、主婦は体操を中心にテニス、フォークダンス、勤労者はバレーバスケット、バドミントン、卓球、剣道。壮年は軽スポーツ、バドミントン、卓球。親と子は野球の基礎とゲームが、それぞれの重点。

岩手国体でスポーツ熱が高まり、これを受けて県の教育振興基本対策審議会は県教委に「スポーツを生活化し、生涯体育の推進を」と答申している。

（毎日新聞）

〈さっぽろ一番記・バドミントン〉から

発足は昭和21年

ミュンヘン・オリンピックで正式種目だったら確実に金メダルというのが女子のバドミントン。日本では大正時代、横浜、神戸などでさかんに行なわれたが、本道では終戦後、昭和二十一年、札幌クラブが誕生、これが主体となって二十三年、札幌バドミントン協会が結成された。

その後、札幌は二十六年に第二回全国高校大会が開かれたのを皮切りに、各種全国大会や国際試合の舞台にもなり、国内で最もさかんな土地のひとつとなった。

全日本選手権では二十四年の第二回大会で奈良岡健三北大教授がベテラン単、札商の村上三郎が少年単で優勝、その後数年間は毎回のように日本チャンピオンを出した。

全国高校でも第二回から四回まで札東、札南、札南と、札幌チームが女子団体で三年連続優勝、それだけに、ここ数年の不振はさびしい。

（北海道新聞）

スケート場が体育館に

バドなら9面も 札幌・真駒内リンク

札幌冬季五輪でジャネット・リンちゃん（米）らが華麗なフィギュア・スケーティングを演じた札幌・真駒内屋内スケート場が、体育館に衣がえする。

道当局が夏の間の利用法を考えた結果、リンク面の上に、パネル式のフロアを張りつめることに決めたもの。

完成は十一月中旬予定なので、ことしは間に合わないが、来春からは、スケートのオフシーズン中、バレーなら4面、バスケット3面、バレドミントンで9面、卓球は36台置けるデラックスな体育館となる。

北海道のバドミントン熱がこれで一段と上昇するかも。

（北海道新聞）

ミニ・レーダー（各地）

お断わり——この欄のお知らせは、ほとんどの場合、皆さんの間には合いません。しかし、どこでどんなことがあるかを知り、今度、いつ催しがあるかを問い合わせ、調べるヒントになれば幸いです。

こうした豆ニュースは毎日のように地方版や地方紙の案内欄に出ますので、よく気をつけて新聞を読んで下さい。

★東京 国立競技場西が丘競技場（北区西が丘三ノ一五ノ一、国電赤羽、池袋、十条、王子各駅よりバス）では、施設の利用を呼びかけている。

▽体育室（バスケット、バレー、卓球、バドミントン）団体利用で1時間の全フロア使用料は二千円。問い合わせ、申し込みは同競技場（電）906・5311へ

★徳島 徳島市教委主催バドミントン教室

▽9月20日から12月30日まで毎月3回、午後7時―9時。

▽徳島市体育館 小、中、高校生を除く市在住者。募集約五十人。申し込みは住所氏名年齢職業を書いて市の教育委員会体育課へ

★浜松 市スポーツ教室（バドミントンとスケート）学生を除く市内の在住者か勤める人。実費用具費バドミントン五百円

期日はバドミントンが市体育館で10月12日―11月14日までの8日、毎回午後6時―8時半。

★神戸 バドミントン教室。シングルスから混合ダブルスまでなごやかな講座。毎月第一、第三水曜日の午後六時から大倉山中央体育館で。無料で定員五十名、問い合わせ、申し込みさきは神戸市役所勤労課。

★岡山 県体協強化本部は国体の天皇杯得点に結びつく競技に激励費を支給、強化することになっており、目下、全部で10競技。バドミントンもその中の一つで、15万円の強化補助を受けている。

★尼崎 体育振興のつどい。9月14日市民体育館、バドミントン、卓球、バレー。

★神戸・垂水区 バドミントン教室、9月9日区役所三階公会堂、区体協主催。

★北海道・木古内 10月1日まで日曜日に町公民館でバドミントン教室、初心者対象。

★札幌 月寒体育館で定期的にバドミントンの開放をやっている。午前10時―午後5時半。

RECORD

女子は草開が〝三冠王〟

男子、今泉は単複に2連勝

富山県

◇第2回県社会人選手権（5月21日・高岡市民体育館）

◇一般男子シングルス▽準々決勝　今泉（高岡市役所）2－0関（双竜ク）、関村（高岡市役所）2－0浜屋（富大ク）、川上（不二越）2－0宮林（高岡市役所）、清水（氷見高教）2－0（高岡市役所）▽準決勝　今泉2－0関村、清水2－0川上▽決勝　今泉2（11－15、15－10、15－0）1清水

◇一般男子ダブルス▽準々決勝　河村・今泉（高岡市役所）2－0市川・中島（三協アルミ）、京田・宮林（高岡市役所）2－0川上・池田（不二越）、関村・牧野（高岡市役所）2－0中島・紙谷（淵ヶ谷教、上市高教）、畑・永原（不二越）2－1関・折橋（双竜ク）▽準決勝　河原・今泉2－1京田・宮林、関村・牧野2－0畑・永原▽決勝　河村・今泉2（15－9、15－11）0岡村・牧野

◇一般女子シングルス▽準決勝　島（吉田工業）2－0富山（三協アルミ）、草開（岐阜相銀）2－0堀内（清水医院）▽決勝　草開2（8－11、11－7、11－3）1島

◇一般女子ダブルス▽準決勝　竹端・草開（清光OG、岐阜相銀）2－0堀内・高島（清水医院、清光OG）、上野・下条（明治乳、清光OG）2－0富山・坂田（三協アルミ）▽決勝　竹端・草開2（15－7、15－7）上野・下条

◇混合ダブルス▽決勝　清水・草開（氷見高教、岐阜相銀）2（15－7、15－5）0市川・富山（三協アルミ）

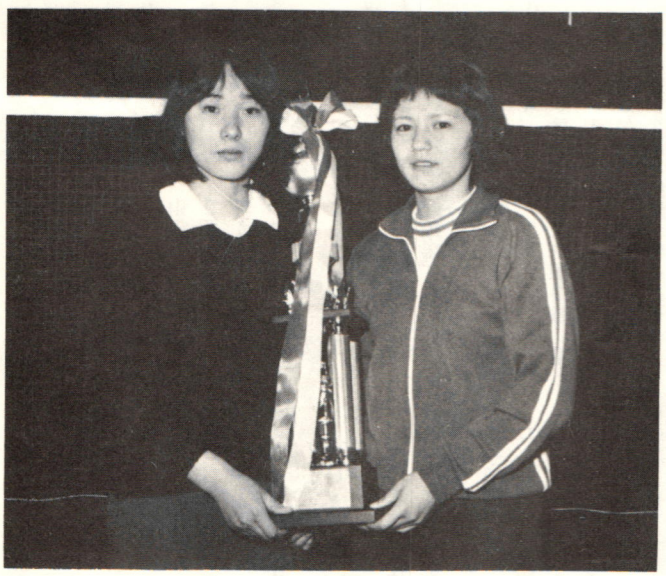
◇30才男子シングルス▽決勝　大野（十条）2－0塚原（博友ク）

◇30才男子ダブルス▽決勝　大野・堺（十条）2－1大沢・宮沢（魚津ク）

◇40才男子シングルス▽決勝　江尻（自営）2－0内多（砺波工教）

◇40才男子ダブルス▽決勝　高木・竹島（日豊高岡）2－0江尻・内多（自営、砺波工教）





▲上は一般男子2連勝の河村㊨今泉組，下は一般女子ダブルス優勝の草開㊧竹端組。トロフィはそれぞれ県協会参与の松岡正雄氏，村井宗吉氏寄贈。

女子は藤原（鋼管）が単複制す

広島県

◇一般年令別大会（5月21日・日本鋼管体育館）

◇一般男子シングルス▽準々決勝　菊地（北川）2－0占部（友ク）、山岡（友ク）2－1伊藤（鋼管）、矢野（日立）2－0永井（広大）、平川（北川）2－1多田（友ク）▽準決勝　菊地2－0山岡、矢野2－0平川▽決勝　矢野2－1菊地

◇一般男子ダブルス▽準々決勝　菊地・平川（北川）2－0伊藤・田口（鋼管）、杉原・山岡（友ク）2－0松本・永井（広大）　多田・占部（友ク）2－0梶原・前田（鋼管）、福谷・田上（鋼管）2－0逸見・福永（広大）　▽準決勝　菊地・平川2－0杉原・山岡、福谷・田上2－0多田・占部　▽決勝　菊地・平川2－0福谷・田上

◇一般女子シングルス▽準決勝　石原（友ク）2－0宮地（日立）、藤原（鋼管）2－0小林（友ク）　▽決勝　藤原2－1石原

◇一般女子ダブルス▽準決勝　石原・小林（友ク）2－0宮地・三森（日立）、藤原・角脇（鋼管）2－0土屋・川原（尾短）　▽決勝　藤原・角脇2－0石原・小林

◇一般壮年シングルス▽準決勝　村上（日立）2－0宮内（鋼管）、大道（日立）2－0兼広（三製）　▽決勝　大道2－1村上

◇一般状年ダブルス▽準決勝　井手・兼松（三製）2－1大道・村上（日立）、豊田・田上（福山OB）2－0松藤・加藤（鋼管）　▽決勝　豊田・田谷2－0井手・兼広

山陽女が団体5連勝
個人も独占 男子は倉敷青陵

岡山県

◇県総体兼中国高校、全国高校、国体一次予選（6月3、4日倉敷青陵高、倉敷中央高）

◇男子団体▽一回戦　総社3－0朝日、天城3－1津山工、備南3－0玉野高、矢掛商3－0津山、西大寺3－0瀬戸　▽二回戦　倉敷工3－0総社、備南3－1天城、矢掛商3－2水島工、倉敷青陵3－1西大寺　▽準決勝　倉敷工3－1備南　倉敷青陵3－0矢掛商　▽決勝　倉敷青陵3－0倉工

◇女子団体▽一回戦　片山3－0笠岡、瀬戸3－0井原、成羽3－0朝日　▽二回戦　山陽女3－0片山、総社3－0久世、倉敷青陵3－0矢掛商、美作3－1玉野商、西大寺3－0瀬戸、天城3－0林野、津山商3－0津山、倉敷中央3－0成羽　▽三回戦　山陽女3－0総社、美作3－2倉敷青陵、西大寺3－0天城、倉敷中央3－1津山商　▽準決勝　山陽女3－0美作、倉敷中央3－2西大寺　▽決勝　山陽女3－0倉中央

◇男子シングルス▽準々決勝　重井（青陵）2－0石森（中央）、山本（備南）2－1大野（倉工）、東（倉工）2－0堀（青陵）、田淵（天城）2－1北井（倉工）　▽準決勝　重井2－1山本、東2－1田淵　▽決勝　重井2（8－15、15－3、15－3）1東

◇男子ダブルス▽準決勝　重井・堀（青陵）2－0赤沢・佐藤（矢掛商）、北井・大野（倉工）2－0田淵・中田（天城）　▽決勝　重井・堀2（15－7、7－15、15－9）1北井・大野

◇女子シングルス▽準々決勝　三宅（山陽）2－0林（青陵）　寺見（山陽）2－0原田（山陽）　田辺（山陽）2－0広瀬（山陽）　三田（山陽）2－0近藤（山陽）　▽準決勝　寺見2－0三宅、田辺2－0三田　▽決勝　寺見2（5－11、11－6、11－2）1田辺

◇女子ダブルス▽準々決勝　寺見・三田（山陽）2－0藤原・日原（山陽）、近藤・国貞（山陽）2－0小川・高橋（美作）　原田・広瀬（山陽）2－0斎藤・大塚（天城）、田辺・三宅（山陽）2－0久山・苔口（西大寺）　▽準決勝　寺見・三田2－0近藤・国貞、田辺・三宅2－0原田・広瀬　▽決勝　寺見・三田2（15－17、15－10、15－4）1田辺・三宅

日大鶴ヶ丘、無傷の優勝
女子は我孫子二階堂王座に

千葉県

◇第18回関東高校選手権（6月3日、4日、千葉県木更津市体育館）

〔男子団体〕

▽一回戦　桐生市高（群）2－0茂原農長者校舎（千）、作新学院（栃）2－0戸田（埼）、甲府市高（梨）2－1京葉（千）、聖学院（東）2－1慶応（神）、桐生（群）2－0霞浦（茨）、宇都宮工（栃）2－0巨摩（山）、都三高（東）2－0新城（神）、木更津（千）2－0浦和西（埼）　前橋商（群）2－0堀越（東）、真岡工（栃）2－0千葉商（千）、甲府工（梨）2－1春日部（埼）、逗子開成（神）2－0千葉市立（千）、大宮西（埼）2－0桐生南（群）、成田農（千）2－0石橋（栃）、横浜緑ヶ丘（神）2－0新島学園（群）、日大鶴ヶ丘（東）2－0日川（梨）　▽二回戦　桐生市商2－0作新学院、聖学院2－0甲府市商、宇都宮工2－0桐生、都三商2－0木更津、前橋商2－0真岡工、逗子開成0－0甲府工、成田農2－1大宮西、日大鶴ヶ丘2－0横浜緑ヶ丘　▽準々決勝　桐生市商2－0聖学院、都三商2－0宇都宮工、逗子開成2－0前橋商、日大鶴ヶ丘2－0成田農　▽準決勝　桐生市商2－1都三商、日大鶴ヶ丘2－0逗子開成　▽決勝　日大鶴ヶ丘2－0桐生市商

○福田（7－15、15－9、15－8）星野
榎（15－1、9－15、15－8）橋場
○後藤（15－1、9－15、15－8）栗原

〔女子団体〕

▽一回戦　千葉女（千）2－0巨摩（梨）、前橋東商（群）2－1足利商（栃）、松戸（千）

2－1都町田（東）

▽二回戦　真岡農（栃）2－1千葉女、関東学六浦（神）2－1太田二（茨）、我孫子二階堂（千）2－0都三商（東）、川口女（埼）2－1境（群）、木更津東（千）2－1甲府二（梨）、二階堂（東）2－0越ヶ谷（埼）、石橋（栃）2－0県商工（神）、渋川女（群）2－1石岡二（茨）、平塚商（神）2－0前橋東商（群）

昭和学（千）2－0川越女（埼）、甲府市商（梨）2－1水戸三（茨）、今市（栃）2－0巣鴨女商（東）、真岡女（栃）2－0佐倉東（千）、日立二（茨）2－1山梨（梨）、前橋市女（群）2－0行田女（埼）、厚木東（神）2－0松戸（千）

▽三回戦　真岡農2－1関東学六浦、我孫子二階堂2－0川口女、二階堂2－1木更津東、石橋2－0渋川女、平塚商2－1昭和学、今市2－0甲府市商、真岡女2－0日立二、厚木東2－1前橋市女

▽準々決勝　我孫子二階堂2－0真岡農、石橋2－0二階堂、今市2－0平塚商、真岡女2－0厚木東

▽準決勝　我孫子二階堂2－0石橋、今市2－1真岡女

▽決勝　我孫子二階堂2－1今市

男子育英、女子聖和が優勝
個人は後藤（女子）が二冠

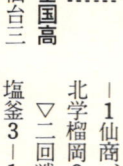
宮城県

◇第21回県高校総体兼全国高校予選（6月3－5日・仙台三高ほか）

◇男子団体戦▽一回戦　仙台二3－0岩出山、村田3－1電波、塩釜3－0仙台、電子3－0大河原、宮工3－0古川、東北3－1白石、仙工3－1古川商、米谷工3－0上沼、仙一3－1仙商、登米3－0加美、東北学榴岡3－0黒川

▽二回戦　育英3－0仙二、塩釜3－1村田、電子3－0栗原、宮工3－1仙三、東北3－1東北学、仙工3－0米谷工、仙一3－1登米、佐沼3－0東北学榴岡

▽準々決勝　育英3－1塩釜、宮工3－1電子、東北3－1仙工、佐沼3－1仙一



▽準決勝　育英3－1宮工、佐沼3－1東北

▽決勝　佐沼3－1育英

◇女子団体戦▽一回戦　白石3－0加美、ウルスラ3－0宮二女、尚絅3－0白百合、仙女商3－0三島、松島3－0岩出山、宮城3－0矢本、ドミニコ3－0常盤木、登米3－0上沼黒川大郷3－0古商、宮一女3－0大河原、栗原3－1朴沢、角田女3－0村田、佐沼3－1古川女、鼎ヶ浦3－0黒川

▽二回戦　塩釜女3－0白石、尚絅3－0ウルスラ、仙女商3－0松島、ドミニコ3－0宮城、登米3－2黒川大郷、栗原3－2宮一女、佐沼3－1角田女、聖和3－0鼎ヶ浦

▽準々決勝　尚絅3－1塩釜女、ドミニコ3－0仙女商、栗原3－2登米、聖和3－0佐沼

▽準決勝　尚絅（不明）ドミニコ、聖和3－0栗原

▽決勝　聖和3－0尚絅

◇第21回県高校総体兼全国高校二次予選個人戦（5月27、28日）

◇男子シングルス▽準々決勝　古川（学院）2－0千葉（佐沼）、八巻（育英）2－0千葉（電子）、岩崎（仙三）2－0田代（仙高）、阿部（東北）2－0鈴木（学院）

▽準決勝　古川2－1八巻、阿部2－0岩崎

▽決勝　古川2（18－14、15－4）0阿部

◇男子ダブルス▽準々決勝　八巻・森（育英）2－0横山・栗野（古川）、山本・桜井（塩釜）2－1大倉・高橋（宮工）、千葉・残間（電子）2－0阿部・只野（仙一）、千葉・今野（佐沼）2－1鈴木・上田（学院）

▽準決勝　千葉・今野2－0千葉・残間、八巻・森2－0山山・桜井

▽決勝　千葉・今野2（15－10、18－14）0八巻・森

◇女子シングルス▽準々決勝　佐藤（塩釜）2－0佐藤（登米）、大友（聖和）2－0宍戸（尚絅）、相沢（尚絅）2－0舟橋（ドミニコ）、後藤（聖和）2－0阿部（塩釜）

▽準決勝　佐藤2－0大友、後藤2－0相沢

▽決勝　後藤2（8－11、12－11、12－10）1佐藤

◇女子ダブルス▽準々決勝　後藤・大友（聖和）2－0佐藤・松田（ドミニコ）、渥美・松本（塩釜）2－1阿部・三浦（仙女商）、舟橋・鈴木（ドミニコ）2－1宍戸・相沢（尚絅）、佐藤・阿部（塩釜）2－0鈴木・赤間（聖和）

▽準決勝　後藤・大友2－0渥美・松本、佐藤・阿部2－0舟橋・鈴木

▽決勝　後藤・大友2（15－7、15－2）0佐藤・阿部

東北大会は山形勢が圧倒

◇東北高校選手権（6月30日－7月1日・仙台市県スポーツセンター）

◇男子団体戦

▽一回戦　日大山形（山形）3－0会津（福島）、仙台育英（宮城）3－1秋田経大付（秋田）、盛岡第四（岩手）3－2佐沼（宮城）、山形工（山形）3－0東奥義塾（青森）

▽準決勝　日大山形3－0仙台育英、山形工3－0盛岡第四

▽決勝　日大山形3－2山形工▽三位決定　仙台育英3－1盛岡第四

◇女子団体

▽一回戦　新庄南（山形）3－0千葉学園（青森）、聖和学園（宮城）3－2会津女（福島）、真室川女（山形）3－0尚絅女（宮城）、敬愛学園（秋田）3－0千厩（岩手）

▽準決勝　新庄南3－0聖和学園、真室川女3－2敬愛学園

▽決勝　新庄南3－0真室川女▽三位決定　敬愛学園3－0聖和学園

今月の言葉

勝つことは楽しい。人間の優越感を満足させるから――背泳で二つの金マッテス＝東独

国では母と姉がテレビ見ているの。きれいに映っているかしら。泣いているのを見られたら恥ずかしいから、今度は二百で金をねらうわ――女子百自由形で敗れたグールド＝豪州

栄光と失意の谷間
―ミュンヘン五輪語録―

トシですね。きっと神様がもうやめてもいいといっているんですね――重量挙げでメダルを逸した三宅

なによりも美しくなくては―演技が美しいだけでなく、静止していても美しくなくてはいけない。体操って極限美の追求なのよ――女子体操個人総合に優勝したツリシチェワ＝ソ連

金メダルの半分はオヤジ（コーチのこと）がとったようなもんだ。半分に割ってあげたいよ――二百平泳ぎ優勝ヘンケン＝米国

半分は自分のため、半分は国のために走った――陸上一万優勝のビレン＝フィンランド

一度でいいからスター役をやりたかったの。そのために1センチでも高く跳ぶ努力が苦にならなかった――女子走り高跳び優勝のマイファルト＝西独

たかが六つや七つの金メダルのために、もういい、そっとしておいてくれ。こんな苦労は二度としたくない――インタビュー攻めにあった水の王者・スピッツ＝米国

私ばかり聞かれて、みんなに悪いみたいで…金メダルとったから威張ってるなんて皆に思われないか、それが一番心配なんです――女子百バタフライ金メダルの青木、羽田で

ひゃあ、えらくごちゃごちゃしてますね。これほど大騒ぎとは思わなかった。しばらくそっとしておいてもらいたい。でもやっぱり無理ですね――百平泳ぎで優勝の田口、羽田で

なぜか知りませんが、落ち着いて射ってます――アーチェリー初出場の女子・秋山

ゲリラ事件で無差別級の試合が一日延期になったのに、飛行機の予定が変更できないからと連盟のおえら方は、みな帰っちやったんです――日本敗るるの日、柔道の松本強化委員

メダルはなくともいい。だが次への希望がないのは、なんとも悲しい――陸上帖佐監督

歴史の流れをだれも止めることができないように、スポーツにおいて記録の向上を妨げることはできない。人に勝とうと思ったら自分が新しい記録をつくっていくより仕方ない――女子陸上千五百優勝プラギナ＝ソ連

開会式に大勢の子供が参加した。西独は地元のオリンピック最中に十年、二十年先きのことを考えている――陸上・具志堅

次号のおもな内容

男子にとって最大のカードはトマス杯。ユ杯終了、ミュンヘン五輪のデモンストレーションと、大きな行事が続いたあとに迎えた国際競技の結果を、多彩な記事でお知らせするつもり。

連続写真の撮影も予定しているが、グラフ用の写真がいろいろあるので、お目見得は多少おくれそう。

このほか、競技は全国中学、実業団と、今回、見送ったものも待機している。ミュンヘン五輪の報告も出番を待ってうずうずしているところだ。

もう一つ、まとまればまとめて登場させたいものがある。それは中国問題。ようやく国交も正常化し、バレーボールも日中交流を実現した。バドミントンの交流も機が熟したように思える。はたして、日本協会の考えはどう進展したか。まずはお楽しみである。

編集室

○…ご愛読をいただいていると思うが、このページの〝今月の言葉〟今回はミュンヘン五輪で話題となった人々の語録をまとめてみた。こう並べると、簡にして要を得た言葉というものが、いかに意味深く、人に語りかけるかがわかる。沈黙は金、雄弁は銀、本誌は？ドウにもならない、か。

次号では、やはりミュンヘンで待望の金メダルをとり、いまや日本中その名を知らぬものなし、といわれる男子バレー松平監督の語録を用意している。

○…先号から、あるいはお気付きだろうが、表紙の体裁、印刷の感じが変わった。写植オフセットで、この方が写真などの刷りが鮮明に感じられる。活字のなじみには、もう少し時間を下さい。

〈表紙の人〉
アニー・ジョーゲンセン（デンマーク）

【バドミントン界】第36号
昭和47年8月25日　印刷
昭和47年9月1日　発行
編集兼発行人　川　端　昇　市
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一
岸記念体育館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二―二九
明宏印刷株式会社
定価　一部　百三十円

©無断転載を禁ず

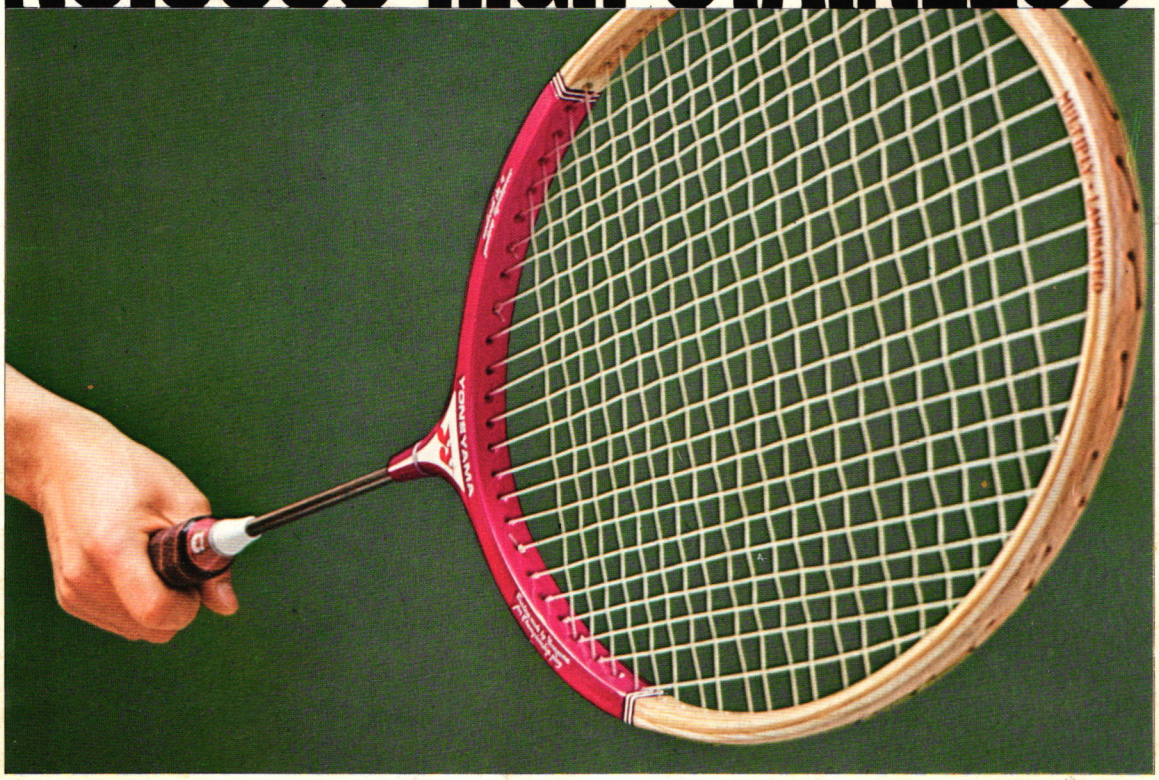


It's Excellent in the Court.
SUNBATTA KING, KING MATE

サンバタ

MOROE SEISAKUSHO CO.,LTD.
46-8, Sasazuka 2-Chome, Shibuya-ku, Tokyo, Japan
Phone : Tokyo (03)377—4401

No.9000 HIGH STAINLESS



未知のちからを隠しもつ

ステンレスのシャフト

しぶとい弾力。まったく鋭い切れ味。瞬間に炸裂する攻撃力。いままでのバドミントンラケットでは、とても出せなかった鮮烈なパワーです。シャフトにステンレスの特性を生かしきってありますから、難度の高いテクニックも思いのまま。これぞ、バドミントンを科学するヨネヤマの、新しい自信作です。その名をハイステンレス。その真価は、世界に点在する一流プレイヤーたちに問いたい。

No.9000ハイステンレス／￥3,800(フレームのみ)

ヨネヤマラケット